



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

国立大学法人 島根大学案内 2008-2009

編集・発行 / 島根大学広報・広聴委員会 (総務部総務課)

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL.0852-32-6011

<http://www.shimane-u.ac.jp/>

E-mail: webinfo@jn.shimane-u.ac.jp



学章

総合大学として飛躍し、発展する島根大学を日本海の青色のUで、
知性を愛し感性を育む学問の探究を茜色の扉と本で象徴しています。

国立大学法人 島根大学概要 2008-2009



PROFILE OF SHIMANE UNIVERSITY

国立大学法人
島根大学

大学概要 2008-2009

SHIMANE UNIVERSITY



CONTENTS

●学長メッセージ	2	●医学部・医学系研究科	19
●島根大学憲章	3	●医学部附属病院	21
●豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成	5	●総合理工学部・総合理工学研究科	23
●特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進	7	●生物資源科学部・生物資源科学研究科	25
●地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進	9	●法務研究科	27
●アジアをはじめとする諸外国との交流の推進	11	●附属図書館	28
●学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営	13	●学内共同教育研究施設等	29
●法文学部・人文社会科学研究科	15	●キャンパスマップ	31
●教育学部・教育学研究科	17	●データブック	1~32



人とともに 地域とともに 島根大学

島根大学は、「大学統合」と「国立大学法人化」という大きな制度改革を経て、「国立大学法人島根大学」となって5年目を迎え、本年は第一期中期目標期間の業務実績等に関する法人評価を受けることとなります。地方にある国立大学法人として、その存在意義をなお一層明確にし、社会からのご期待に応え、島根大学の発展を図っていきたくと考えています。そのため、平成18年、大学の目指すべき方向を明確に示す「島根大学憲章」を制定したのに続いて、平成19年には「大学憲章」の理念をより簡潔に示す島根大学のキャッチフレーズとして、「人とともに 地域とともに 島根大学」を定めました。島根大学の全学生、全教職員がこれらの精神を等しく共有し、その実現を目指します。

島根大学は、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」の実現に取り組んでいます。多様な地域からなる国土の均衡ある発展が、地球温暖化などの環境問題が顕在化する中で、持続可能な社会の発展を実現するとともに、結果として、我が国の国際競争力をも増強することになると考えるからです。

島根大学は、(1) 地域における「知と文化の拠点」、「人材養成の拠点」として、自然と共生する豊かな社会の発展に努め、(2) 教育活動を通じ、自主的に学ぶ学生を育て、地域社会に、また、広く世界に貢献できる医師、看護師、教師、法曹、科学技術者、公務員などの高度専門職業人を養成し、(3) 地域課題の解決を目指す研究活動によって、世界レベルの研究成果を挙げ、(4) 地域社会に開かれ、地域社会との協働によって、医療・教育・文化・自然環境・産業振興などの広範な分野で、社会貢献を進め、(5) 真理を愛し、人権を尊重する大学の伝統に則り、自由で創造的な空気に満ちた大学運営、広く社会に開かれた透明性の高い大学運営に努める決意です。

島根大学は、創造的な研究成果をあげ、それらを継承し、発展させる教育活動を重視し、「新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域における活動の基盤として飛躍的に重要性を増す」21世紀の社会的要請に応えられるような「夢のある新しい島根大学」として発展していきたくと考えています。無限の可能性を持つ多くの若い知性が島根大学に集うことを願っています。

島根大学長 本田 雄一

島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。

この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

1

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。

島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

2

特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。

島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

3

地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。

島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

4

アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

5

学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。

島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。



University Identity 1

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学の知的及び人的資源を活用して、多様化し変動し、さらにグローバル化する現代社会の要請に応え得る豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探求心に富む有為な人材を育成します。
このため、入口から出口までの優れた教育プログラムを提供し、成果を着実に積み上げることで、地方における総合大学としての存在意義と社会的評価の確立を目指します。
このような教育環境をつくるため、学生の立場に立った大学づくりを目指します。

教養教育

人と世界への理解を深める

大学の教養教育は、総合的な判断力と豊かな人間性を身につけた社会人の養成、専門教育への橋渡しを目的に、4年ないし6年一貫教育の中で行われ、幅広く充実した授業を提供しています。これからの大学教育には、学生や教育内容の変化に対応して、教養教育の重視がますます望まれています。生涯学習や大学教育の基盤となる「基礎教育科目」、全人的教育として知性・感性・徳性を養う「共通教養科目」、専門教育へつながる「専門基礎教育科目」を通してこの課題に応えます。学内の全教員が、全学統一の教育方針に従って担当することにより、教養教育がいっそう充実することを目指しています。



今後ますます重要視される教養教育

学部教育

基礎から専門へ深化する一貫教育

現代社会は、さまざまな分野で起こる問題を理性的に、創造的に解決する力を求めています。その力を支えるのは、深い専門知識、広い分野、総合的な判断力です。島根大学は、教養教育から学部教育へ、基礎から専門へと体系的に深化するカリキュラムに沿って一貫した教育を行っています。

個性豊かに専門性を追求し、現代社会の多面的ニーズに応えます。

- 法文学部 人を知り、人を創る
- 教育学部 体験が育む、プロの教育実践力
- 医学部 人類の福祉と地域医療に貢献する医療人の育成
- 総合理工学部 科学・技術が創る人間の未来
- 生物資源科学部 “いのち”あふれる地球を育む

特色ある全学教育プログラム

大学で学ぶ力を身につける - 初年次教育プログラム

本学では教養教育カリキュラムに初年次教育を導入しています。初年次教育とは、大学1年生を対象に、大学で学ぶ上で必要な基礎的知識と方法を習得し、主体的に学ぶ姿勢を身につける教育プログラムのことをさします。全学の取り組みとしては、教育開発センターが中心となって、「現代大学論-大学を知り、大学で学ぶ-」「スタートアップセミナー」「先輩に学ぶ島根大学のこころと形」を開講しています。各学部・学科においても「大学教育基礎セミナー」等を通じて実施されています。島大生らしく学ぶための基礎作りをサポートします。



島根に学び主体性を育む - フィールド学習教育プログラム

キャンパスから飛び出して、人と触れ合い、自然と触れ合い、文化・歴史と触れ合いながら学問する。これが島根大学のフィールド学習教育プログラムです。学生は、本学が位置する島根県の、身近で豊かな自然環境、社会的・文化的環境を〈エリア・キャンパス〉と見立てて、地域の方々や様々なものと実際に触れ合い、知識と体験を連動させながら学習をします。学生がそれぞれの個性を発揮し、自分自身の問題を見つけ、教員を含む仲間と力を合わせてその学生なりの答えを見つける。このような問題発見・解決型学習は、その学習結果のみならず、プロセスそのものがフィールド学習の学びの対象となります。こうした教室では得難い多面的な学びを島根大学では積極的に導入し、サポートしていきます。



環境マインドを育てる - 環境教育プログラム

松江キャンパスでは平成18年3月、出雲キャンパスでは平成20年3月に環境マネジメントシステム(国際規格ISO14001準拠)を取得しました。総合大学でISO規格を取得したのは、全国でも本学が初めての事例です。これを受けてより環境に配慮し、そして自発的に行動する環境マインドを育む取り組みが全学で行われています。そうした力を養う環境教育についても、コア科目「環境問題通論」を初めとした多数の授業科目が開講されており、それらが「環境関連科目ガイド」として体系化されています。

University Identity 2

特色ある地域課題に立脚した 国際的水準の研究推進

幅広い分野にわたって高度な研究成果を蓄積し、それぞれの分野においてアクティブな知能集団として研究活動を推進するとともに、多様化する社会の要請に柔軟に対応できる研究組織の拡充強化を図ります。

大学の使命を果たすためには、学問の自由の理念に基づき、常に自らの教育研究活動に対する点検・評価を行い、新たな知的創造に向けての努力を行います。

また、大学院における教育研究活動をさらに推進し、地域に密着した個性的な研究及び国際的レベルの独創的な研究を重点的に育成するとともに、人類に共通な知的財産の継承発展や社会貢献を目指す学問領域も大切に学風の構築を行います。

学部の枠を超えた研究活動「プロジェクト研究推進機構」

自然環境と人間の調和を実現する先端的研究

次のような領域について全学的に取り組むべき具体的研究テーマを設定し、本学の特徴ある研究を集中的な経費配分のもとで推進しています。

- 地域社会の課題に対応し、産学官が連携して学術的・文化的・経済的価値を創出する研究
- 医学系と人文社会科学系、自然科学系、工学系の連携融合によって新たな展開が期待される過疎・高齢化等の諸問題の解決をめざした研究
- 本学の研究業績の蓄積・立地条件等を活かした国際的に通用する創造的な研究

重点的に取り組む研究プロジェクトは「プロジェクト研究推進機構」の次のような各部門に位置づけられ、期限と目標を明確にして集中的に進められます。

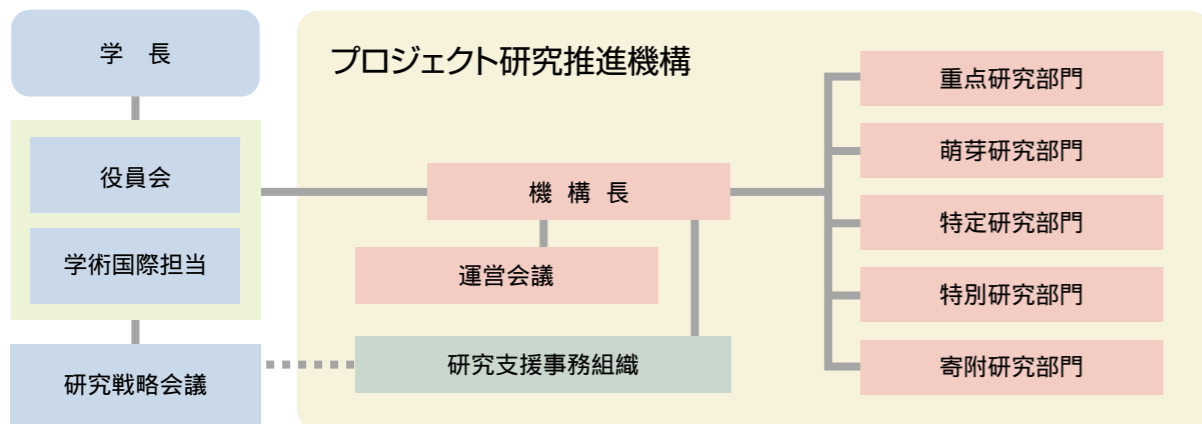
重点研究部門 中期計画に沿った具体的研究テーマを学際的に推進し、本学の特色ある研究として国際的な研究拠点を目指す研究プロジェクトで構成されます。

萌芽研究部門 数人規模の個別テーマや小規模な学際的なテーマで、近い将来本学の重点研究プロジェクトへの発展が期待される研究プロジェクトで構成されます。

特定研究部門 本学が地域貢献、国際貢献などの目的で政策的に取り組むべき研究プロジェクトで構成されます。

特別研究部門 既に外部資金等を獲得している研究のうち本学が重要な研究と位置付け学内外に可視化する研究プロジェクトで構成されます。

寄附研究部門 外部からの寄附によって設置される研究プロジェクトで構成されます。



重点研究プロジェクト

本学が本年度から重点的に取り組む特徴的な研究には次のようなものがあります。

S-匠ナノメディシンプロジェクト

島根大学発のナノテクノロジーを用い低コストで安全な新しい診断・治療の基礎技術開発を目指す。

高齢化が進む地域で患者の割合が増加するがんやアルツハイマー型認知症の診断・治療に有効な高度医療技術は、高額な治療薬や設備が必要で、患者負担を増加させる問題があります。本プロジェクトでは、これまでに島根大学が世界に先駆けて開発してきた「低コスト」「簡易」「実用性」を兼ね備えた材料技術をもとに、「安心」「安全」で高機能な地域に貢献できる独自のナノ医療技術を開発します。プロジェクト名の「S」は島根大学、安全(Safe)、簡易(Simple)、経費と時間の節約(Save)を意味します。

ここで用いるのはベビーパウダーの原料である酸化亜鉛やデザートで食べられるナタデココ、ゼリーなどの身近で安全な材料です。これらが持つ発光や薬物保持の機能を応用して、がんの早期診断・治療などの画期的な技術が生まれる可能性があります。

これらの技術は材料作製から臨床応用までが小規模な施設で完結でき、町工場の職人「匠」に通じる総合的な技術伝承が可能であり、本プロジェクトは医・理工連携による新しい教育研究分野の人材育成も目指しています。



島根大学が開発したガス中蒸発法による酸化亜鉛ナノ粒子(透過型電子顕微鏡写真)



がんの早期診断にも応用できる酸化亜鉛ナノ粒子によるバイオイメージング(蛍光顕微鏡写真)(左)と蛍光を示す酸化亜鉛ナノ粒子の分散液(右)

地域資源循環型社会の構築

持続可能で活力ある地域を目指す。

島根県内の優れた地域資源を発掘し、その循環利用のあり方を考究し、将来の持続可能な地域資源循環型社会の構築を目指します。本プロジェクトは6つのサブグループに分かれ、それぞれ連携しながらプロジェクトを進めていきます。

汽水域環境再生G...宍道湖・中海において、機関・情報ネットワークの構築、生息場所のモニタリング、有用水産生物資源バンクの開発を目指します。

流域統合管理G...流域環境資源の保全を目的とし、環境負荷物質の動態調査やモデリングを通し、流域統合管理手法を考察します。

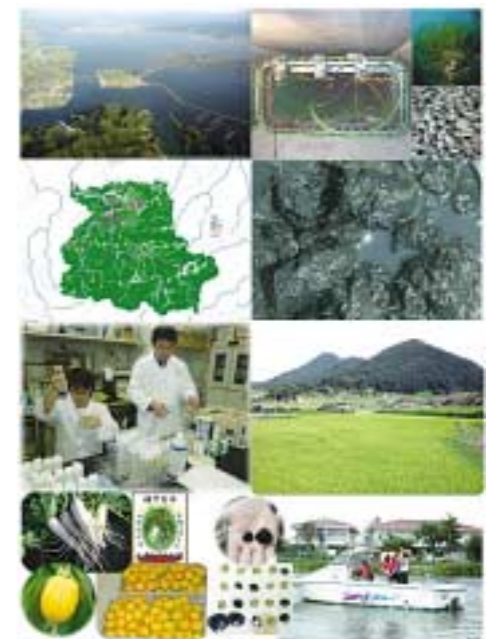
水環境修復技術G...高機能性・多機能無機材料を開発し、水環境浄化・修復および貴重資源回収・再資源化を図ります。

施設機能保全G...営農や水循環に重要である水利施設の機能保全を実現するため、補修・補強工法の高度化と体系化を実施します。

バイオマスG...中海の有機質堆積物や下水汚泥等の地域バイオマスの種類(質)・量に応じた利活用技術・システムの開発を行います。

環境調和・地域特産農産物G...地域特産農産物の環境負荷低減および米を原料としたバイオエタノールのエネルギー利用を図ります。

地域資源循環型社会がグローバル化社会と共存するひとつの社会モデルとなりうることを、理化学データを元に証明し、島根大学から発信します。





University Identity 3

地域問題の解決に向けた社会 貢献活動の推進

山陰地域・環日本海地域という本学の置かれる地域の歴史的・地理的特性を生かして、人類に共通の財産としての学術・文化の継承発展を担い、さらに、地域固有のテーマに関する知的創造を通じて普遍的な真理を探究するとともに、本学が有する知的財産を活用して、教育・研究・文化の拠点として地域社会の発展に貢献します。このため、大学全体として地域のニーズに応える体制を構築することにより、地域に必要とされ、信頼される大学を目指します。

産学連携の具体例

島大発の新技术!自骨スクリューを使った新骨折治療法の開発

医学部の内尾祐司教授を中心とする「健康長寿社会を創出するための医工農連携プロジェクト(骨格系グループ)」(平成16~19年度)は、手術中に患者自身の骨をビーナッツ大の大きさに取り出し、それを手術室の中で骨スクリュー(骨ネジ)に形成し、骨折部分に差し込んで止めるという新しい骨折治療法を開発しました。手術室用のマイクロ加工機はナノ社(横浜)との共同で、硬性小物等は岸エンジニアリング(出雲市)や深井鉄鋼(出雲市)との共同で開発しました。従来の金属スクリューによる治療と比べ拒絶反応やネジ抜き取りの再手術がないなどのメリットのほか、数ヶ月後には、周囲と同質の骨に変わるため、完全な生体適合が期待できます。平成19年に5例の臨床試験を成功させており、各症例とも術後経過は良好で、合併症も無く順調に回復しています。また、高機能化や多用途化に向けた取り組みとして、骨スクリューの表面をプラズマ加工することや(地域新生コンソーシアム研究事業、エステック社(東出雲町)、アドテックプラズマテクノロジー社(福山市)、島根県産業技術センター(松江)、画像解析によって手術の安全性をわかりやすく提示することにも取り組んでおり、本研究チームは、これらにより産学連携の研究拠点形成、ベンチャー企業の設立を目指しています。



中・小規模排水処理施設用高性能リン除去・回収装置の開発

生物資源科学部の佐藤利夫教授は、「中・小規模排水処理施設用高性能リン除去・回収装置」を財団法人しまね産業振興財団を管理法人として、株式会社イズコン、帝人エンジニアリング株式会社、クリオン株式会社と共同開発しました。(平成18年度中国経済産業局「地域新生コンソーシアム研究開発事業」)。この装置は、高性能なリン吸着剤(HTCF)を用いて、汚泥を発生せずに排水中からリンを効率的に除去・回収・再資源化することができ、かつ維持管理も容易でコンパクトな省エネ型の高性能リン除去・回収装置です。中・小規模排水処理施設にも設置可能で、平成20年3月に実用試験装置が完成しました。本技術の普及により、全国有数の汽水湖である宍道湖・中海の内水面水産業および水の都松江の観光産業の活性化、さらに資源化産業による地域活性化が期待できます。また今後は、全国の農業集落排水処理施設や集合浄化槽などの処理施設への普及も期待でき、湖沼や内湾等の閉鎖性水域の水質浄化と同時に、枯渇資源であり最近高騰しているリンの再資源化を可能とする技術として注目を集めています。



HTCF再生、リン回収装置運転状況

産学官が共同研究、島根県特産西条柿の「晩夕飲力」が商品化

生物資源科学部板村裕之教授を中心とする「健康長寿社会を創出するための医工農連携プロジェクト」(平成16~19年度)は、「晩夕飲力」を島根県、JAいわみ中央と共同研究・開発し、JAいわみ中央より発売しました。この「晩夕飲力」は、島根県の特産品である西条柿を100%使用した柿エキストラクトで、お酒の悪酔い防止効果だけでなく、高血圧防止などの効果があるタンニンと呼ばれる柿ポリフェノールを簡単に摂取できる清涼飲料水です。全国一の栽培面積を有する県の特産品である西条柿(愛称:こづち柿)の高付加価値利用を目指して、本プロジェクトと県の新産業創出プロジェクト推進事業「健康食品産業創出プロジェクト」の島根県農業技術センター加工部(旧しまねの味開発指導センター)との間で、2003年から共同研究を開始しました。その後、柿の実の成分に一定の悪酔い防止効果があることを確認し、2007年4月に商品化しました。



写真:産学官共同開発で商品化された「晩夕飲力」

地域に飛び出す学生たち

スポーツを通じた交流

陸上競技部では、陸上競技の普及・振興を願い、島大リレーカーニバルを開催しています。島根・鳥取両県より小・中学生を中心に毎回約300名が参加し、熱戦が繰り広げられています。また、ボート部は水の都ならではの行事「レガッタ」の運営に参加するとともに、ボート競技の普及活動に積極的に関わっています。さらに、山岳部は、地元山岳会とともに、県内初のフリークライミング練習場の設立、運営などに参画しています。



市民レガッタ

ボランティア活動

ボランティアに取り組む学生が多いのも島大の特徴の1つです。療養所や保育園との交流、遊びを通じて世代間交流を図るプレレまつえキッズ、献血推進サークル「ぐっば」等々、笑顔と心で地域との交流を深めています。また今年度よりボランティア活動やサークル活動などの正課以外の諸活動を頑張る学生を応援するピビットカードが生まれました。



<http://shiengp.shimane-u.ac.jp/>

大学の開放



公開講座(農作業)



公開講座(シルクロード)



公開講座(水泳教室)



春・秋の農場祭り

松江市上本庄町の「附属生物資源教育研究センター」(通称:本庄農場)において、春と秋に農場祭りを実施しています。地域の人々にとっても恒例行事となっています。



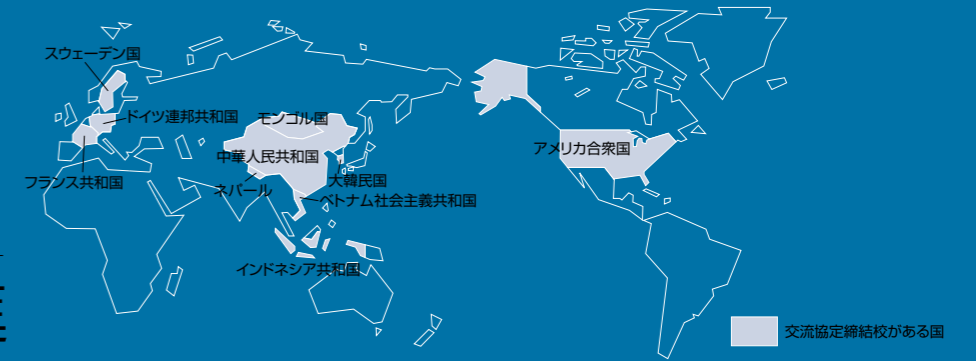
公開講座

島根大学には市民に開放された施設、そしてバラエティーに富んだ公開講座が用意されています。生涯学習教育研究センターを中心に、これまで県内の多くの市町村において公開講座を実施しました。これからも様々な講座を企画し、地域の生涯学習意欲に応えていきたいと考えています。



University Identity 4

アジアをはじめとする諸外国との交流の推進



最先端の学術・文化に関する情報を世界に発信するとともに、研究者・技術者・学生による学術・技術・文化の交流を通じて国際社会に貢献します。特に、環日本海地域との国際共同研究、学術交流及び留学生交流に重点を置きます。

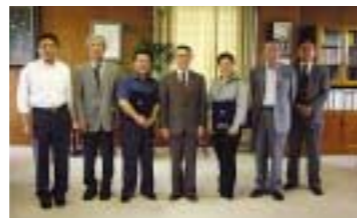
人情に厚く、住みやすい島根県に所在する本学の歴史的・地理的特性を生かして、日本の自然と文化に触れさせ、外国人研究者との共同研究や「未来からの大使」としての留学生の教育や交流などを通じて大学の最新情報を世界に発信します。

学術交流

島根大学では、研究者の自由な学術研究活動により、様々な共同研究や国際プロジェクトを実施しています。相手国の大学や研究機関から留学生や研修員を本学に一定期間受入れを行い、より前進した共同研究やプロジェクト、先進的な技術面の普及支援を展開しています。また、本学の位置する地理的特性を活かして、環日本海地域の文化交流、自然環境についての国際共同研究、ワークショップ、国際会議を行っています。

中国 寧夏大学及び寧夏医学院との連携による学術交流

寧夏大学及び寧夏医学院と本学は長年にわたり学術交流を行っています。2005年からは両大学の研究者を「寧夏特別研究員」として受入れ、人材育成研修を行ってきました。この研修は従来型の学術交流を更に進めたものであり、寧夏大学及び寧夏医学院と本学との交流連携体制を強化するとともに、国際貢献の観点からも有益なものです。この研修修了者が将来、本学で得た成果を発揮し、活躍することが期待されます。



修了証書授与式後の記念撮影(2007年6月18日)



米国 アーカンソー大学との連携による春期海外研修

アーカンソー大学で毎年春に本学の学生が約3週間の海外研修を行っています。この研修はアーカンソー大学英語学習センターでの授業、ホームステイ体験、カンパセーションパートナーとの交流、豊かな自然環境の中での野外活動など、様々な体験を通し、実践的な生きた英語を学びます。

研修中の一コマ(2008年2月)

大学間交流協定締結校

2008.5.1現在

大学等名	国名	協定締結日	大学等名	国名	協定締結日
セントラル・ワシントン大学	アメリカ合衆国	1982.3.26	山東大学	〃	2005.7.20
ケント州立大学	〃	1982.8.31	浙江大学教育学院	中華人民共和国	2006.3.31
カリフォルニア大学デビス校	〃	1986.2.11	釜山教育大学校	大韓民国	1990.3.23
アーカンソー大学	〃	1993.3.1	慶尚大学校	〃	1991.3.5
コロラド大学健康科学センター	〃	2006.2.23	慶北大学校	〃	1991.3.6
テキサス大学ダラス校	〃	2007.8.10	ソウル産業大学校	〃	1998.4.22
瀋陽体育学院	中華人民共和国	1986.7.24	延世大学校	〃	1999.6.14
東北林業大学	〃	1989.12.28	ジャン・ムーラン・リヨン第3大学	フランス共和国	1990.11.24
南京林業大学	〃	1993.4.15	オルレアン大学	〃	2002.7.12
中国農業大学	〃	1996.12.29	アンリ・ポワソナレ・ナンシー第1大学	〃	2003.1.15
寧夏大学	〃	1997.8.18	リンショーピン大学	スウェーデン国	2005.4.21
北京林業大学	〃	1997.8.23	モンゴル工科大学	モンゴル国	1999.3.24
吉林大学	〃	1999.2.1	モンゴル健康科学大学	〃	2002.10.4
河北師範大学	〃	2002.7.29	モンゴル国立農業大学	〃	2004.3.23
大連大学	〃	2003.6.30	トリブバン大学	ネパール	1991.12.8
上海交通大学医学院	〃	1987.6.27	アングラス大学	インドネシア共和国	1997.5.6
寧夏医学院	〃	2004.2.27	ロストック大学	ドイツ連邦共和国	2004.5.18
北京師範大学	〃	2004.3.18	ハノイ医科大学	ベトナム社会主義共和国	2005.10.17
中国人民大学経済学院	〃	2005.4.14			

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

1987年、本学農学部(現生物資源科学部)の教員が、外国人として初めて中国寧夏回族自治区南部山区に入り学術調査を行いました。それがきっかけとなり、本学と寧夏大学との研究交流が始まり、交流を開始して10周年にあたる1997年には両大学間で交流協定が締結されました。その後、2004年3月に長年の両大学間の研究交流を本格発展させると共に、人材育成事業に協力するため、JBIC(国際協力銀行)の中国政府に対する円借款事業により、寧夏大学キャンパス内に共同研究所を設置することに合意し、2005年9月に島根大学・寧夏大学国際共同研究所新棟が完成しました。本研究所には島根大学側と寧夏大学側双方の所長及び研究員を置くこととし、2006年から島根大学側の所長と研究員が現地に常駐して調査と研究を進めています。

本研究所は、都市と農村との地域間格差問題、中山間地域(条件不利地域)の活性化、開発と環境問題などを主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に発信するとともに、人材の育成・交流の積極的な展開、国内外の研究者に開かれた中国西部地域研究の拠点づくりを目指しています。2007年は寧夏大学との学術交流開始20周年にあたり、同年10月に寧夏大学で、そして、2008年4月には本学及び松江市内で国際シンポジウム及び記念行事を実施しました。



研究所の業務内容

- 研究事業(主なテーマ)
 - 「寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続可能な発展に関する研究」
 - 「生態系・環境の保護と再生に関する調査研究」
 - 「農村経済と社会発展の比較研究」等
- 学術交流、国際学術フォーラムの開催(日本・中国)
- 図書資料の蓄積と提供
- 島根県、松江市等の国際交流事業への協力





University Identity 5

学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

教育研究環境の向上・充実を図るために、教員組織と事務組織その他全ての職員組織を有機的に機能させ、大学においては学生へのサービス体制と教育研究、附属病院においては教育研究及び医療を重視した管理運営を目指します。このため、本学独自の多面的な自己点検・評価及び外部評価を活用し、学長のリーダーシップと補佐体制の充実による企画・立案機能の向上と迅速かつ合理的に目標や計画の実行が可能となる管理運営組織を構築するとともに、その責任体制を明確にします。

また、教職員・学生の声が反映され、透明性のある管理運営を行うとともに、教職員にとって働きがいのある職場環境の充実を図ります。

学生による教育座談会 - 語ろう!島根大学 -



教育開発センターでは、毎年11月下旬～12月上旬を目処に「学生による教育座談会-語ろう!島根大学」を実施しています。学生同士が学部・学年の枠を超えて率直に議論し、問題意識や視点を共有化していくことを通じて、本学の教育の在り方に関する重要な点や課題を掘り取ることを目的としています。2007年度は、第1部・第2部とそれぞれ異なるテーマについて3つのグループ内で討論を行い、個々の意見をポストイットに書き出し、それを模造紙に集約するというワークショップ形式で結果をまとめ・報告してもらい、全体討論を行いました。第3部では簡単な交流会も行いました。本田学長や坂本副学長を交えて熱い議論が行われるなど、学生間のみならず教職員との交流の場としても有効に働いていることが伺われます。今後もこうした場を設定し、学生の声を真摯に受け止めながら、本学の教育の発展に寄与するべく様々な活動を展開していきたいと思えます。

環境に関する島根大学の社会貢献

コミュニケーション

島根大学では、地域社会の一員として、地域のみなさんの環境問題に関する声に耳を傾けます。また、環境教育・研究の成果を地域に向けて発信していきます。学内のコミュニケーションについては、「キャンパス環境投書箱」をweb上(学外からはアクセスできません)に設置したり、屋外でランチミーティングを開催したりして学内の環境問題について広く学生・教職員の意見を集約しています。



地域社会とのコミュニケーション

地域のみなさんの声は、EMS実施委員会で審議・調査しています。これらの声に基づき、国道沿いにはみ出していた樹木のせん定や自転車マナーの向上の指導・周知を行いました。

学内とのコミュニケーション

学内の環境問題等に対して教職員、学生の皆さんからご意見・お問い合わせ等を投稿いただく「キャンパス環境投書箱」を設置しています。島根大学ホームページからアクセスできます(学外からはアクセスできません)。投稿内容は、EMS委員会で検討されます。①緑地等の自然環境の保全、②廃棄物の減量化、処理及び再資源化、③省エネルギー、④交通問題対策、⑤環境教育、⑥環境マネジメントシステム、⑦その他学内環境の改善、の事項についてご意見・お問い合わせを受け付けています。

第三者評価について



全国初、附属病院を含む全学でISO14001の認証取得

松江キャンパスでは、2006年3月に川津地区についてISO14001の認証を取得しました。2007年3月には大輪地区(附属小学校、附属中学校、附属幼稚園)及び本庄地区(本庄総合農場)も認証され、認証範囲を拡大しました。2008年3月には出雲キャンパスについても認証され、全学での認証を取得しました。

医学部及び附属病院を含む大学全体としての認証取得は、国公立大学の中でも全国初のことであり、これを機に今後も環境に配慮した活動に努めます。

医学部附属病院が「働きやすい病院評価」認証を取得

医学部附属病院では、特定非営利活動法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」(ejnet)が行う「働きやすい病院評価」の認証を平成19年3月11日に取得しました。全国の大学病院では初めてであり、全病院を通して全国で6番目の認証取得となるものです。「働きやすい病院評価」の認証を取得することにより、医師、看護師、復職希望の女性医師等医療従事者への認知度の高まりを期待し、そのことによって優秀な人材の確保を行うとともに、患者さんの信頼感・安心感の醸成、ひいては患者さんにも選ばれる病院となることを目的としているものですが、病院内保育所の設置、「女性にやさしい病院ワーキング・グループ」の設置等を通して、病院長を中心とした就労環境改善への前向きな姿勢が評価されたものと思われまます。



人文社会科学研究科

法文学部



Faculty of Law and Literature
Graduate School of Humanities and Social Science



人を知り、人を創る

私たちは、他者との関わりのなかで自己という存在を強く意識しヒトから人へと成長していきます。人を知り、人を創る技を磨くことが、社会を、国家を、世界を知ることにつながっていくのです。全国屈指の少人数教育に情報技術や国際交流をとり入れた法文学部をステップとして、世界へ、人間探求へと飛躍してください。

人文社会科学研究科

法経専攻

言語・社会文化専攻

法文学部

法経学科

社会文化学科

言語文化学科

●詳しくは<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

法経学科

法経学科では、経済学と法学の両面から社会について学び、民間企業の法務・金融担当者や司法書士、行政書士等の法律経済関係の専門、一般職に就く人を育成するだけでなく、法科大学院やビジネススクール、研究者養成大学院等に進学する人を育成します。他方で地域には、環境、少子高齢化、地方分権、中山間地域、地域振興等、解決すべき課題が山積みしています。これらの課題の解決に必要とされる法学・経済学の基礎的な知識と応用力を身につけ、分析能力・政策立案能力や問題処理能力を養うことによって、国・地方公共団体等の行政部門やNPOで活躍できる人を育成します。

法廷教室における専門演習(民事模擬裁判)の光景



社会文化学科



社会文化学科は現代社会・歴史と考古・福祉社会の3つのコースに分かれています。コースの所属は入学後、志望及び成績に基づいて決定されます。

現代社会コース

人間と環境、地域と人間の相互関係、地域社会の構造や機能、文化の特徴などを体系的に理解する視点を養います。座学中心の講義や演習に加えて、実験や観察、社会調査やフィールドワークなどの実習を通してデータ収集と分析技法を実践的に学びます。

歴史と考古コース

歴史学では、日本史、東洋史、西洋史、現代史について専門的に学び、考古学では、日本考古学を中心に学び、理論と実地調査双方への認識を培うことができます。研究室は学生によって自主的に運営されており、テーマを選んで主催される自主ゼミのほか、研修旅行なども毎年企画されています。

福祉社会コース

福祉社会コースは、現代社会の重要テーマである社会福祉の問題に取り組み、地域社会に貢献できる人材養成のために設置されました。講義や演習に加え、福祉現場での実習を通して社会福祉の全体像を学ぶことができます。本コースでは所定の科目を履修すれば、社会福祉士国家試験の受験資格が取得できます。



言語文化学科

日本東アジア言語文化分野

日本語学・日本文学の分野では、古代から現代にいたるまでの日本語と、それによって生み出された文学について幅広く学ぶことができます。中国語学・中国文学の分野では、遠く神話、甲骨文字の時代から、現在活躍中の中国作家の作品にいたるまで、広く研究することができます。



英米・ヨーロッパ言語文化分野

【英米言語文化】文学作品を鑑賞しながら分析方法を学んだり、日米文化を比較することで異文化理解を深めます。また、英語を母国語とする教員を中心に発信型の英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【ドイツ文化】ドイツ語の読解力と表現力を涵養し、ドイツ及びドイツ語圏の文化を広く勉強し、幅広い視野と分析力を身につけます。

【フランス文化】フランスの文学や文化テキストについて、文法的及び内容的な読解力や分析力を身につけます。交流協定大学への留学を視野に入れた実践的な指導もあります。

文化の創造と理解分野

人が生み出したものを理解し、その理解をもとにしてさらに創造する—この分野では、継承・衝突・創造が繰り返す人間の文化活動を研究の対象にします。また、芸術・文学・映画・音楽などの作品にも実際に触れながら、文化理解のための技術を習得していきます。

大学院 人文社会科学研究科

法経専攻(法政コース・地域経済コース)

言語・社会文化専攻(言語文化コース・社会文化コース)

入学した大学院生は、各自の研究課題や修了後に目指す進路に応じた4コース(法政コース、地域経済コース、言語文化コース、社会文化コース)のいずれかに属し研究のスキルをすすめて、各分野の高度な専門的知識と技法を習得します。さらに、学際的・国際的な研究を通じて、総合的実践的能力を育むことも目指します。

●詳しくは<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>をご覧ください。

教育学部 教育学研究科



Faculty of Education Graduate School of Education

体験が育む、プロの教育実践力

教員養成に特化した専門学部

教育学部は、全国的な教員養成学部の再編・統合の先駆けとして、21世紀の教育改革をリードし、地域の教育課題の解明と解決に積極的にかかわる、山陰地域唯一の教員養成専門学部生まれ変わりました。

<主専攻・副専攻>方式学修システム

「専門科学教育科目」、「教科教育学」、「教科内容構成研究」に「卒業研究」を加えた11のパッケージ型カリキュラム（専攻）を設定しています。これらの専攻の中から1つの主専攻と副専攻を選択するという<主専攻・副専攻>学修システムを導入することで、一人ひとりの目的や関心、取得しようとする教員免許に応じて、さまざまな学びのかたちが実現します。

1,000時間教育体験学修の必修化

子どもとふれあう生きた体験学修を重視して、県内外の教育関連機関の協力のもと、学校教育外での教育・指導体験を中心とする「基礎体験」、「臨床・カウンセリング体験」、附属学校園における教育実習を中心とする「学校教育体験」の総計1,000時間の体験学修プログラムを必修とし、多様な体験活動に裏打ちされた教育実践力の向上を図ります。

教育学研究科

教育実践開発専攻

教育内容開発専攻

教育学部

学校教育課程

- 初等教育開発専攻 ○心理・臨床専攻 ○特別支援教育専攻
- 言語教育専攻 ○共生社会教育専攻 ○自然環境教育専攻
- 数理基礎教育専攻 ○人間生活環境教育専攻
- 健康・スポーツ教育専攻 ○音楽教育専攻
- 美術教育専攻

●詳しくは<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

■初等教育開発専攻

「小学校教育のプロフェッショナル」の養成をめざします。

■特別支援教育専攻

心身に障害をもつ幼児・児童・生徒などを対象にした、個人差を配慮した指導の基礎となる知識や指導力を身につけた教師を育成します。

■心理・臨床専攻

学校教育のさまざまな側面に、心理学の視点、専門的立場から積極的に働きかけていける教師の育成をめざします。

■言語教育専攻

<国語教育コース>日本語学、日本文学、漢文学、書写・書道、国語科教育学の5分野で専門の授業や卒業研究などを行っています。

<英語教育コース>英語教育の理論と実践を学ぶのはもちろんのこと、英米文学の原典に触れたり、会話や作文を通しての英語運用能力向上にも力を入れています。



■共生社会教育専攻

歴史学、地理学、政治学、社会学、宗教学、社会科教育学等の専門分野に立脚した教科内容の研究能力を育成します。

■自然環境教育専攻

子ども達の知的好奇心を刺激し、自然を探究する楽しさを味わうことのできる指導法や教材開発について学びます。

■数理基礎教育専攻

数学についてより深い理解と、問題や課題、教材をみつける目を養い、的確な説明や指導のできる教員の育成を目指します。

■人間生活環境教育専攻

<家政教育コース>現代社会の生活環境に対するニーズをゆとりとるおいのある快適な生活環境の創造として捉え、「創造性豊かな人間社会を築くことのできる教師を養成する」ことを目的としています。

<幼児教育コース>食育、健康、環境、ものづくり、子育て支援等の現代の課題を担う幼児教育教員の養成を目指します。



■健康・スポーツ教育専攻

健康科学やスポーツ科学の成果を踏まえ、学校や地域における健康・スポーツ教育を推進しうる教員の養成を目指します。

■音楽教育専攻

声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、音楽教育学の各分野について、専科として1つの分野を深く追求するとともに、副科として幅広い分野も学びます。

■美術教育専攻

基礎造形能力の修得、専門性の深化、豊富な臨床的教育体験による美術教育理論と実践的授業展開力の強化などをめざした幅広いカリキュラムを用意しています。



大学院 教育学研究科

教育実践開発専攻 教育内容開発専攻

急速に国際化、情報化が進展する現代社会において、新しい時代を担うべき優れた教員を養成することが重要な課題となっています。本研究科は、「スクール・リーダー」となる高度な資質を有する学校教員の養成を目的とし、山陰地域における教員養成基幹大学院として現職教員および学部卒業生の双方に高度な専門性を獲得させ、地域の教育界を担う人材の育成を目指しています。

そのために、学校教育現場における学校教育研究、授業研究の力を養成する「教育実践研究」科目を開設するなど、学部教育のカリキュラムとの有機的関連性を重視しています。また、教職経験3年以上の現職教員を対象に、通常の2年課程に替る「1年短期履修コース」を設置し、教育課程・教育方法等に特段の措置を講じることで現職教員が自ら求める専門職性の向上に努めています。

●詳しくは<http://edu.shimane-u.ac.jp/edu/ln-gaiyou.html>をご覧ください。

教育支援センター



教育と研究を支援する施設です。子どもの心と育ちの支援や臨床体験を企画・運営する教育臨床・教育相談センター部門と教材開発や教育実習・教育体験活動の企画・運営等を担当する教育実践・実習開発センター部門の2部門があります。

附属幼稚園・小学校・中学校



教育学部における教育の実践的研究および教育実習を行う機関として重要な役割を担っています。

医学部
医学系研究科

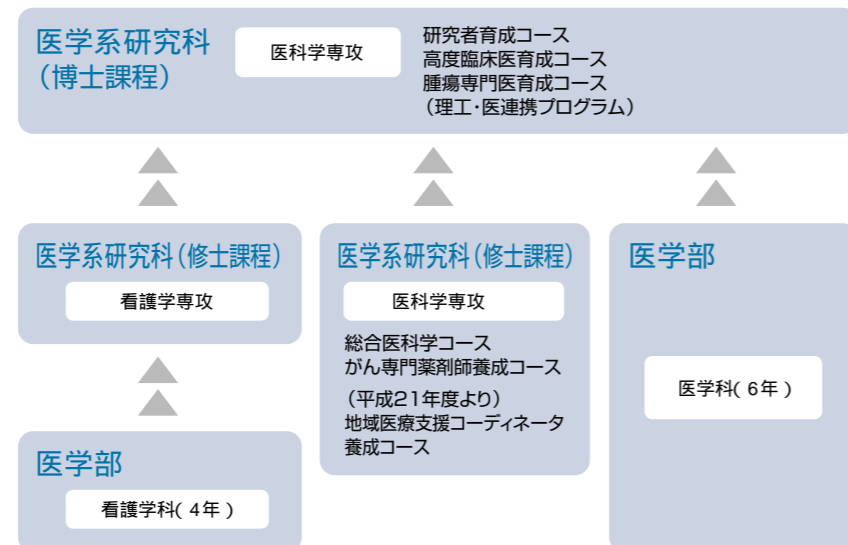


Faculty of Medicine
Graduate School of Medical Research



次世代を担う医療人の育成と
先進医療の地域への還元

生命の尊厳と患者の権利・人格の尊重を教育の柱とし、
広い教養と高い倫理観を身につけ、科学的な探求心と総合的な判断能力を養い、
時代の要請に応じて地域に貢献する医師・看護師を養成することを目指しています。



●詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

医学科

人の心がわかる優しさを備え、人々の健全な生活と健康増進に貢献しようとする強い意思をもち、とりわけ地域医療に寄与できる医師の育成を目指しています。全国に先駆けて、へき地出身者を対象とした地域枠推薦入試を行い、入学後は地域医療の現場体験学習を重視して、県内の医療機関や福祉施設等において早期医学体験実習や地域医療病院実習を行っています。また、少人数グループによる問題解決型チュートリアル教育を臨床医学教育に導入しています。卒業生は、医師国家試験合格後、大学病院あるいは臨床研修指定病院で臨床研修を行った後、研修を続けながら第一線の医療に従事します。大学院(博士課程)に進学して、研究者あるいは高度臨床医・腫瘍専門医を目指す道も開かれています。



この目標を達成していくために、教育の重点として、第一に、自分で考え課題を解決していく能力、科学的に追求する能力を育むように、少人数による課題解決型の演習授業を多く取り入れ、4年次にはその集大成として「卒業研究」を課しています。第二に、病院や保健所、社会福祉施設等実際の場面で学ぶ臨地実習に力を入れており、実習を通して、対象者から学び、対象者とともに考え、実践していく能力を育成するよう指導しています。

看護学科



医療の高度化が急速に進展する一方、高齢社会の到来によって、近年、人々の看護に対するニーズは益々増大し、多様化してきています。看護学科ではこうした社会の要請に応え、一人ひとりのニーズを的確に把握し、適切に援助していくことのできる専門性の高い有能な看護職を養成したいと考えています。

この目標を達成していくために、教育の重点として、第一に、自分で考え課題を解決していく能力、科学的に追求する能力を育むように、少人数による課題解決型の演習授業を多く取り入れ、4年次にはその集大成として「卒業研究」を課しています。第二に、病院や保健所、社会福祉施設等実際の場面で学ぶ臨地実習に力を入れており、実習を通して、対象者から学び、対象者とともに考え、実践していく能力を育成するよう指導しています。



大学院 医学系研究科

《博士課程》 医科学専攻
研究者育成コース 高度臨床医育成コース
腫瘍専門医育成コース

《修士課程》 医科学専攻 看護学専攻

医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、医学の分野においては、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を備えた優れた研究者の養成ならびに優れた研究能力を備えた臨床医・腫瘍専門医の育成を、看護学の分野においては、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力と、人間性を備えた優れた研究者又は高度専門職業人の養成を目的とし、併せて医学及び看護学の発展と人類の福祉の向上に寄与することを使命としています。

●詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>をご覧ください。





医学部附属病院

University Hospital

理念『地域医療と先進医療が調和する大学病院』

目標

- 患者さん中心の全人的医療の実践
- 人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
- 地域医療人との連携を重視した医療の提供
- 地域社会に還元できる研究の推進



病院外来棟外観

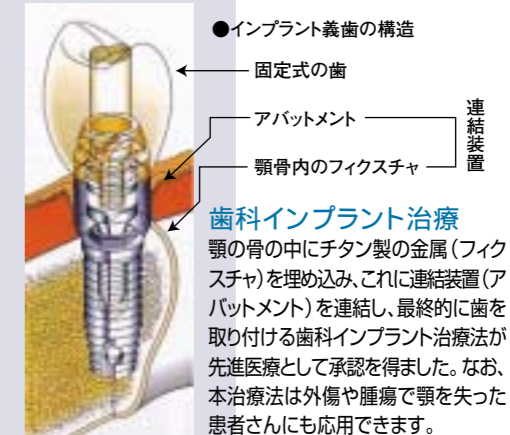
昭和54年に開設以来、県下唯一の特定機能病院として医療人教育、高度医療提供、臨床研究に当たってきました。平成17年には国立大学病院として初めてがん診療拠点病院に指定され、現在は都道府県がん診療拠点病院としてがんプロフェッショナル養成プログラムを推進中です。病院機能評価V.5は元より、プライバシーマーク、国立大学病院初の女性医師の労働環境を評価する「働きやすい病院機能評価」、附属病院としては全国初の ISO14001（環境マネジメント）も取得しています。平成17-19年度の文科省GPで延べ140名のスタッフ、学生を海外病院研修に派遣し実践的臨床教育に取り組んでいます。今年から病院の増築・改築が始まり5年後には再整備が完成する予定です。

●詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/index.html>をご覧ください。



ISO14001 拡大認証を取得

島根大学出雲キャンパスでは、平成20年3月にISO14001の拡大認証登録を取得しました。国立大学法人で附属病院を含む認証は全国初となります。



ベーカリーカフェ「フルール」

患者さん家族と職員の満足度向上を目指して、病院1階売場に焼きたてのパンやピザと美味しいコーヒーが楽しめるベーカリーカフェ「フルール」が平成20年4月に開店しました。



病児・病後児保育室

うさぎ保育所（院内保育施設）と連携した育児支援事業として、平成20年4月から病児・病後児保育を新たに開始しました。これは女性医師・看護師の就業継続と復職支援を目的としています。



新放射線治療システム

「切らずにがんを治す」放射線治療が注目されていますが、ビームの形状や強さを病巣に合わせて自在に制御できる最新式の放射線治療装置を平成20年8月稼働に向け準備中です。平成18年度に更新した装置と併せ2台体制で、高精度で良質な放射線治療を提供していきたいと考えています。



病院で落語を聴く会

病院1階待合ホールでプロの噺家による落語を聴く会を開催しました。入院患者さんに笑いを提供し一日も早く快復をしていただくことを念願し開催したものです。



日本版WWAMIプログラム

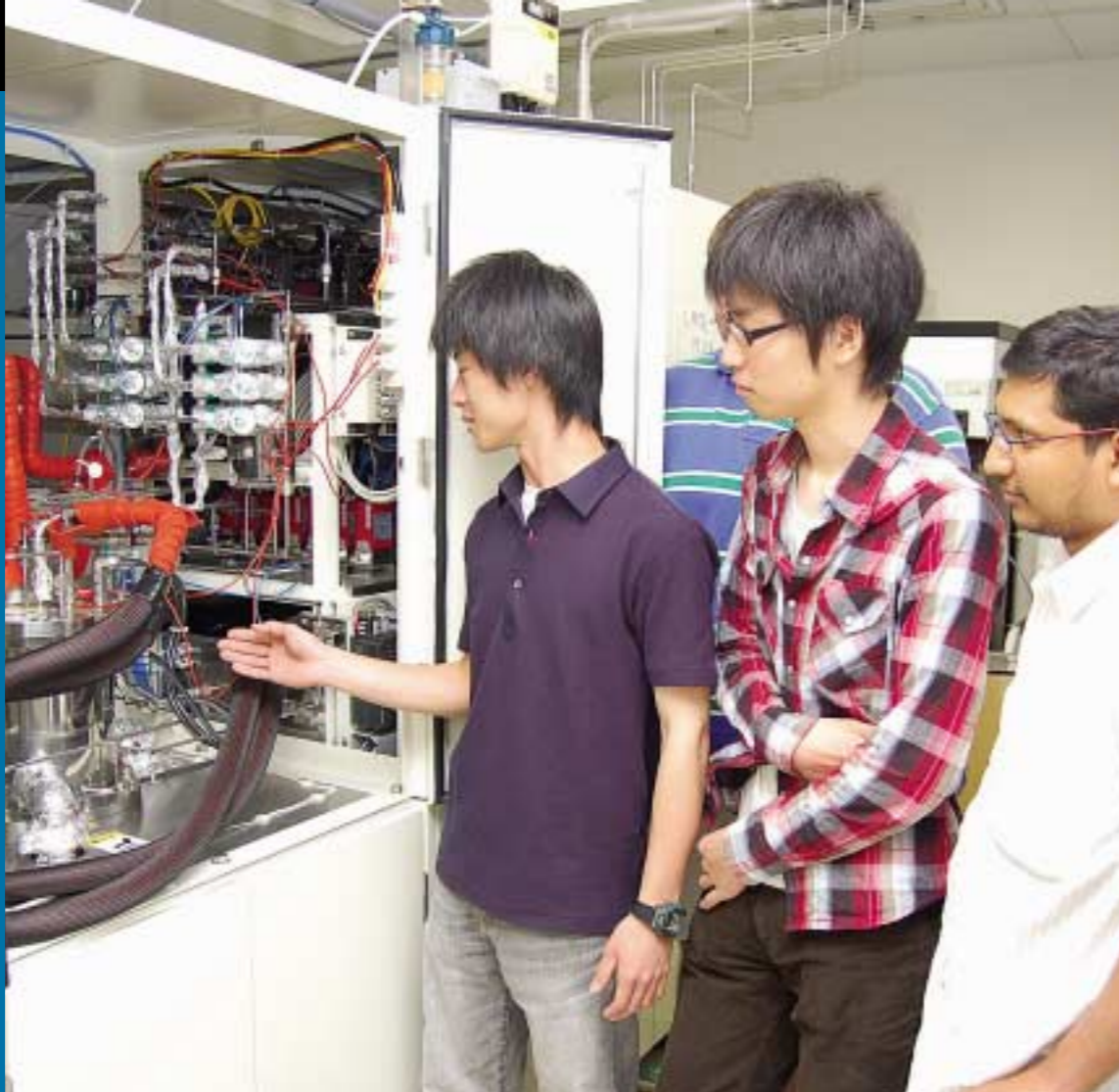
「夢と使命感を持った地域医療人の育成プログラム」で、140名のスタッフ、学生を派遣し臨床医学教育視察体験研修を行っています。



腫瘍センター「腫瘍臨床研究部門」

出雲市からの寄附金により、平成20年2月に腫瘍センター内に「腫瘍臨床研究部門」を設置し、地域のがん医療水準の向上やがん予防及び早期発見の推進に資することを目的としています。

総合理工学部
総合理工学研究科

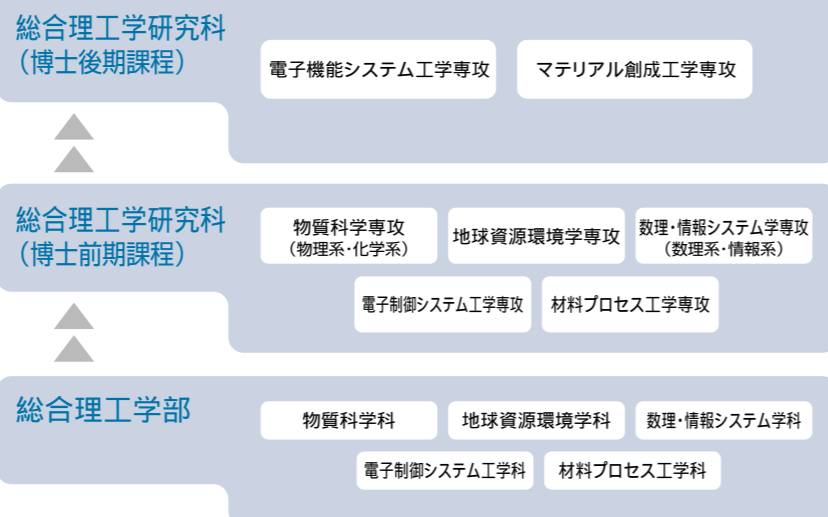


Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering
Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering



科学・技術が創る人間の未来

最新の手法を駆使して自然科学を解明しようとする理学系分野と、未来の最先端科学技術を担う工学系分野が、既存の学問分野の枠を越えて1つの学部で総合、融合、一体化した全国的にもユニークな学部のひとつです。素粒子サイズから地球サイズまで、さまざまな対象を科学的に捉え、基礎理論から先端技術への応用まで幅広く扱う学際的教育・研究システムを特色としています。



●詳しくは<http://www.riko.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

物質科学科

物理分野

物質科学科・物理分野では、素粒子論から新素材開発まで、物質に関する幅広い研究が行われています。ここでは物質の基礎と応用を、物理学の視点から学びます。2年次までは主として物理学の基礎科目を修得し、3年次から次第に、物理学の専門科目とともに、材料科学の専門科目を履修して行きます。卒業研究では、これらの履修に基づいて、幅広い分野を選択することが出来ます。



化学分野

物質科学科化学分野は、化学の基礎から応用まで深く学びたい人、新機能を持つ物質を研究したい人、応用技術を修得したい人のための教育を提供しています。JABEE対応の技術者教育プログラムに基づき、基礎的・専門的知識を基に、自主的に仕事を立案実行できる技術者の養成を目指す機能材料化学コース、基礎から応用に及ぶバランスのとれた幅広い知識を基に、様々な分野で活躍できる人材育成を目的とした基礎化学コースがあります。



地球資源環境学科

地球資源環境学科は地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学の3講座からなり、地質学から工学的分野まで総合的に教育・研究する、全国で最初の特徴ある学科です。本学科では、充実した最新の研究設備を駆使して教育・研究を行っています。また、国内外の地質見学をはじめ、実験・実習を重視したカリキュラムを組んでいます。



大学院 総合理工学研究科

《博士前期課程》 物質科学専攻(物理系・化学系) 地球資源環境学専攻
数理・情報システム学専攻(数理系・情報系) 電子制御システム工学専攻
材料プロセス工学専攻

総合理工学研究科は5専攻19講座を擁し、これらの各専攻では学際領域の研究開発やそれに携わる高度技術者育成という社会要望に応え、従来の細分化された学問領域にとらわれず、科学技術の総合化を目指す新たな理工融合理念に則した研究・育成システムを実践しています。また、外国人留学生とともに修学する『英語による「地球」教育研究特別プログラム』が設置されています。

●詳しくは<http://www.riko.shimane-u.ac.jp/master/master.html>をご覧ください。

《博士後期課程》 マテリアル創成工学専攻 電子機能システム工学専攻

高度な研究開発能力を身につけ、科学技術の創造に貢献できる人材を養成します。また、『英語による「地球」教育研究特別プログラム』も設置されています。さらに、理工学と医学が融合した分野の教育研究を推進するために、『理工・医連携プログラム』を平成20年度より新設しました。

●詳しくは<http://www.riko.shimane-u.ac.jp/doctor/doctor.html>をご覧ください。

数理・情報システム学科

数理分野・情報分野

本学科は、数理構造コースと数理解析コースの数理系の2コース、及び情報システムコースと情報工学コースの情報系の2コースから構成されています。数理解析と情報科学・情報工学の有機的関連性や共通性を教育の基盤として、今日の両学問の体系と特色を教育・研究しています。1年次に数学と情報の基礎を学び、2年次以降は数理系や情報系の専門教育を学び、幅広い知識と視野、豊かな着想、柔軟な思考力、適切な判断力を持ち合わせた国際性豊かな専門技術者や教育を含む諸分野で指導的役割を果たせる人材を育成します。特に、



両系の特色・独自性に基づいて、数理系では構造論的抽象数学や諸現象の数理科学的解析のための現代数学、情報系では物(ハードウェア・ソフトウェア)作りとこれを支える種々の体系的な方法を教育・研究しています。

電子制御システム工学科

本学科は、機械工学、電気工学、および電子工学の3分野を融合した学科です。これらの分野の核心的基礎を幅広く学習した上で、各分野に対応するコースの専門科目をより深く学ぶことにより、高度情報化社会を支える技術者として必要な専門性を修得し、激動の21世紀で活躍できる人材の育成を目指しています。本学科の教育プログラムは、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けています。



材料プロセス工学科

材料プロセス工学科の教育は、健康で快適な生活と、資源循環型社会の実現のために材料設計、プロセス設計(生産プロセス設計・循環プロセス設計)、製品設計(建築設計・機械設計)の全般に対応できる、広い知識と独創性を兼ね備えた人材の育成を目指して、教育を行っています。



生物資源科学部 生物資源科学研究科



Faculty of Life and Environmental Science
Graduate School of Life and Environmental Science

“いのち”あふれる地球を育む

本学部では、生物・生命を、人間社会と広範で多様な関係を有する存在という広い意味での資源と捉えます。そして生命現象の基本原理解から、生物資源の育成、利用、開発保全とそれを育む環境に関する広い分野を教育研究の対象としています。

生物資源科学研究科

生物生命科学専攻 農林生産科学専攻 環境資源科学専攻



生物資源科学部

生物科学科 生態環境科学科 生命工学科

農業生産学科 地域開発科学科

附属生物資源教育研究センター

●詳しくは<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

生物科学科

生き物について総合的な知識を身につけることができるよう、基礎から先端領域までをカバーするカリキュラムを用意し、生物科学系のあらゆる分野に対応できる人材を育てます。「細胞生物学」と「生物機能学」の2大講座があり、細胞から生物集団に渡るバランスのとれた教育を行っています。島根県の豊かな自然を生かした教育研究も魅力です。



生態環境科学科



深刻な環境問題を抱える現代において、生態系を保全しながら持続的に利用する方法を模索することは、人類の未来に大きな意義を持っています。バランスを崩した生態環境を評価し、修復することを志す人材を育成します。

本学科には次の3つの講座があり、「環境生物学講座」では、生物の生存や作物の生産に関わる複雑な生態系の構造と機能、「生態環境工学講座」では、生物の機能を活かした生態工学技術の開発、「森林環境学講座」では、森林の生態および育成、保全、利用に関する教育・研究を行っています。

生命工学科

ライフサイエンスとバイオテクノロジーを基礎から徹底的に学び、微生物、植物、動物の生命現象を解明し、その有用機能を産業に役立てる教育や研究を行います。本学科には2つの講座があり、「応用生命工学講座」では食品、医薬品の開発につながる最先端の興味深い教育・研究に触れ、「生命情報工学講座」では分子レベルで基礎から応用までの独創的な研究と教育を行います。



農業生産学科

地球温暖化、土壌や水質汚染などの環境悪化、食品の品質や安全性の低下、将来の食糧不足への不安など現代社会における食糧問題を解決が迫られています。農業生産学科では、社会、生産者、消費者のニーズにどのようにこたえていかなど農業をとりまく諸問題に関わり、解決していくための教育・研究を行っています。「食糧生産学講座」はカロリー源となる農作物や動物性食糧の生産について、「植物資源開発学講座」は園芸作物の生産、繁殖、品種改良について、「生産技術管理学講座」は農業現場での、効率的、先端的生産管理を教育・研究を行います。



地域開発科学科

人々の生活を支える文化の保全、社会の発展および生産の振興に関する最適な政策を考え、生活環境を豊かにする科学技術と自然環境を保全する科学技術の均衡を図りながら、望ましい地域社会の実現をめざした教育・研究を行います。「豊かな地域社会」、「持続可能な農業と農村」の創造に努め、これらに貢献できる人材を育成するため、社会科学的側面、工学的側面からの専門教育により、知識と技術の習得を図ります。「農林・資源経済学講座」または「工学系教育コース」（「生物環境情報工学講座」と「地域環境工学講座」により3コースを運営）に所属して学びます。その中の「地域工学コース」は、JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定教育プログラムであり、卒業生は技術士資格取得のための一次試験が免除されます。



大学院 生物資源科学研究科

生物生命科学専攻 農林生産科学専攻 環境資源科学専攻

大学院は独創性の高い研究者の養成のものであるのみならず、先端領域において能力を発揮するために必要な高い応用力を教育する場としても必須のものとなっています。生物資源科学研究科では、各専攻それぞれに「課題研究コース」、「学術研究コース」、「地域産業人育成コース」を設け、各人の志向に応じたカリキュラムの選択を可能にしています。課題研究コースでは多様な高度専門職業人を養成するための、学術研究コースでは連合大学院博士課程への進学など研究者を目指す人材を養成するための、また、地域産業人育成コースでは地域産業において指導的役割を果たす人材を養成するための教育プログラムを提供します。また、セメスター制の採用により秋入学を可能にし、社会人や留学生の利便性の向上をはかっています。講義では研究科共通の必修科目として「科学方法論」や「生物資源科学論」を設け、総合科学的な視点を深めるとともに、専攻、コースに応じた研究や演習により、高い独創性と実践力、国際的な対応力を養っています。

●詳しくは<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

法務研究科 山陰法科大学院



地域社会に根ざしながら、 国際的な視野と行動力を備えた法曹の養成

国際化にも対応できる高度の法的思考力と知識を有する優れた法的知性を備えるとともに、人間的魅力に富み、ライフワークとして山陰をはじめとする地域の法化社会化に尽力する専門的ジェネラリストとしての法曹を養成します。

1 養成すべき法曹像(法科大学院の基本理念と教育目的)

- ①「国民の社会生活上の医師」として地域課題を熟知し、地域社会に深く根ざした法曹
- ②東アジアを中心とした各国法事情・国際取引等に精通し、国際社会の発展に貢献できる法曹

2 カリキュラムの基本的考え方

(法科大学院の教員組織とカリキュラムの基本的考え方)

- ①基本的法律知識の体系的・理論的理解とともに、職業法曹としての倫理観を醸成する
- ②実務的課題への実践的取り組み方法を修得させるため、理論を踏まえつつ、実務への架橋を意識した教育
- ③先端応用領域における法的問題解決能力を身に付け、多様かつ地域独自の現代的課題に対応できる能力を磨く



法務研究科

法曹養成専攻

法曹過疎の解消

- ①地域的課題に精通
- ②環日本海の国際商取引
- ③知的財産管理

附属図書館

附属図書館は、学内外の学術情報資源を最大限に利用するための機能を備えた大学の情報・資料センターとして、教育・研究活動を支援しています。



本館
松江キャンパス

本館には図書約75万冊、雑誌約1万誌の資料が所蔵されており、このうち図書約25万冊、雑誌4千誌が開架閲覧室等で利用できます。閲覧室の他、少人数での共同学習に適したグループ閲覧室、情報検索や講習会用に31台のパソコンを設置した情報メディアルーム、ビデオやDVDが視聴できるAV

ルームがあり、資料別には郷土資料室、遺跡資料室、八雲文庫室、貴重資料室及び学術雑誌フロアがあります。学生用図書の整備にも力をいれ、学習に必要な新刊書などの充実を図っています。また、学術情報の世界的な電子化の流れの中で、約7千タイトルの電子ジャーナルや各種データベース、Webコンテンツ等を提供しています。軽い雑誌を読みながらくつろげるブラウジングコーナーもあり、様々な用途に応じた利用ができます。情報メディアルームの他に情報コンセントを備えたインターネットフロアやパーソナルキャレル、無線LANの設備があり、ノートパソコンを接続することにより、図書館資料(紙媒体)とインターネット資源(電子情報)を併用しながらレポート作成や学習ができる環境を提供しています。また、島根県立図書館や松江市立図書館との相互利用協定や、県内の高等教育機関の図書館による島根県大学・高等専門学校図書館協議会の設立を契機に、一般市民の方々への生涯学習支援や地域の高等教育機関の学生・教職員へのサービスなど、地域貢献にも努めています。

医学分館
出雲キャンパス



医学分館は、出雲キャンパスのほぼ中央に位置し、キャンパス各棟をめぐり渡り廊下から直接入館できるよう、閲覧室入口は2階にあります。館内には閲覧室の他、パソコンを備えたセミナー室、1階にビデオ室、ブラウジングコーナー及び3階には視聴覚室、自由閲覧室などがあります。学内利用者は、生体認証システムにより24時間入館で

きます。所蔵資料は、図書約12万冊、学術雑誌約4千誌などで、これらの資料は、学内者はもとより学外者にも公開し、学術情報の提供に寄与しています。この他ビデオテープ、CD-ROMなども所蔵しています。また、医学文献情報データベースや約7千タイトル以上の電子ジャーナルを提供しており、これらは図書館ホームページから利用することができるようになっています。医学分館では、情報収集のスキル向上を目指して、学生、教職員向けに実習を中心とした文献検索説明会を数多く開催しています。



開架図書(本館)



閲覧室(本館)



新着展示コーナー(分館)

学内共同教育研究施設

学内には、各学部や研究科等に所属する研究者が共同して教育・研究にあたる施設として、一連の教育研究施設を設置しています。



生涯学習教育研究センター
当センターは、地域の生涯学習の推進と市民の学習機会の拡充のため地域の生涯学習関連機関・団体と連携を図りながら、地域社会の発展に寄与しています。
<http://www.ercil.shimane-u.ac.jp/index.html>



総合情報処理センター
学内のみならず、地域社会のネットワークの中核としての将来計画を志向しながら情報発信機能を強化することを目指しています。
<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/>



汽水域研究センター
「人間社会とそれを取り巻く自然環境の持続的発展を可能にするための汽水域の保全と利用」を基本理念として、汽水域の環境変動や多様性メカニズムの解明に取り組んでいます。
<http://www.kisuiiki.shimane-u.ac.jp/>



外国語教育センター
外国語教育の計画立案・運営・実施及びその点検評価を組織的に行うほか、外国語教育を通して、地域・社会貢献および国際貢献に寄与することを目指しています。
<http://cfe.shimane-u.ac.jp/>



松江地区



出雲地区

産学連携センター

産学官連携の拠点として大学の総合的窓口機能を担い、民間等との共同研究、受託研究及び科学技術相談への対応、知的財産に関する相談及び企業・民間の技術者・医療技術者への教育等の業務を行っています。
●地域産業共同研究部門 ●地域医学共同研究部門
●連携企画推進部門 ●知的財産創活部門
<http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>



総合科学研究支援センター
既存の研究分野の枠を超えた共同利用体制の整備を実現し、生命・環境・ニューマテリアルに関する先進的及び学際的な教育・研究を強力に支援するとともに、その成果を社会の発展のために還元しています。

- 遺伝子機能解析分野（松江キャンパス） ●RI実験施設（松江キャンパス）
 - 物質機能解析分野（松江キャンパス） ●実験動物分野（出雲キャンパス）
 - 生体情報・RI実験分野（出雲キャンパス）
- <http://www.shimane-u.ac.jp/>から「共同利用施設」をクリック



ミュージアム

永年の教育・研究によって収集・蓄積されてきた標本資料類などを整理・保管、調査・研究し、展示公開や情報発信を行っています。
<http://museum.shimane-u.ac.jp/>



国際交流センター

多様な国際交流活動の拠点となり、産業界、行政・市民など地域社会との協働的国際交流・国際教育戦略の発展を推進していきます。
<http://kokusai.shimane-u.ac.jp/>



島根大学・寧夏大学国際共同研究所

研究所を拠点に、条件不利地域の活性化、開発と環境問題、都市と農村の格差問題などを主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に向けて発信することを目指しています。
<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>

学内共同利用施設

工作センター

工作機械を効果的に管理し、教育・研究に必要な機器装置などの製作、修理を行っています。学生も実習などで利用できます。



学生生活関係施設



大会館・食堂

学生・教職員が相互交流できる場として、また、書籍・文具及び日用品の販売、食堂等、学業を継続する上で必要なサービスを提供している施設です。



保健管理センター

島根大学の学生・職員が心身ともに健康な生活が送れるよう、また、より健康が増進されるよう専門的立場から支援するサービス部門です。（松江・出雲両キャンパスに設置）



雄翔寮



紫雲寮

学生寮

現在、建替え計画があり、入寮の募集を中止することがあります。
男子寮（雄翔寮）TEL.0852-25-0438 定員/200名
女子寮（紫雲寮）TEL.0852-25-0437 定員/94名
●住所/松江市西川津町字深町3371の1



学生センター（松江キャンパス）

学内中央部に位置し、学生が快適な大学生活を送れるように支援・助言等を行っています。また、同センターには、入試センター、キャリアセンターも設置されています。



教育開発センター

島根大学における学生の学びの質を保障・向上するために、教育システムの構築やFD、それらを支える各種調査、特色ある授業の創出や全学教育プログラムの企画・実施まで様々な学習環境改善活動に携わっています。
<http://cerd.shimane-u.ac.jp/>



入試センター

島根大学における入学者選抜方法等の改善を図るため、入学試験の企画、広報、実施、評価、改善等を行っています。
<http://nyucen.shimane-u.ac.jp/>



キャリアセンター

学生の職業・進路選択及び就職活動をより円滑に推進するため、全学的立場から支援する組織として就職情報の提供、就職相談、キャリア教育の企画・実施、就職情報の整理・活用を担っています。
<http://career.shimane-u.ac.jp/>

松江キャンパス

〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL.0852-32-6100

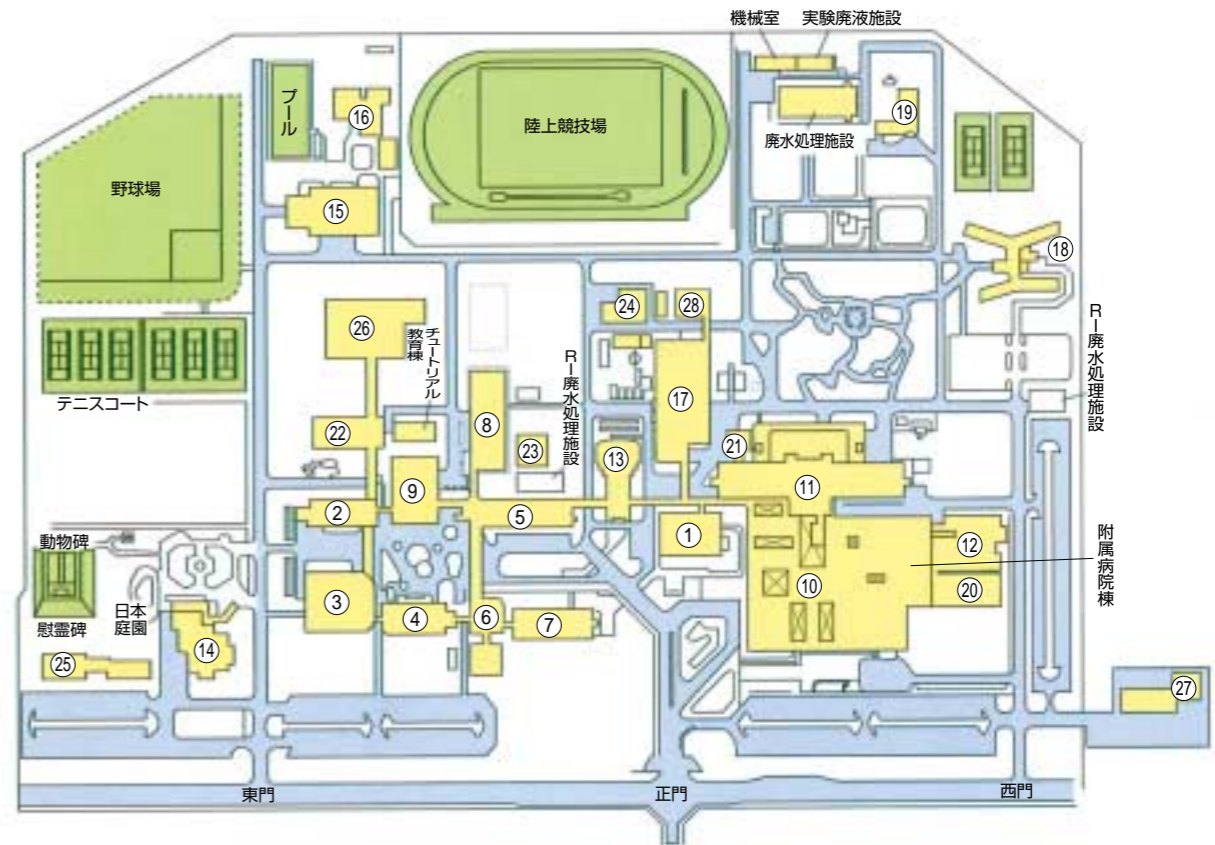


- 1 本部棟
- 2 車庫
- 3 工作センター
- 4 教育学部実験研究室
- 5 教育学部附属教育支援センター
(教育実践・実習開発センター)
- 6 光物性実験室
- 7 生涯学習教育研究センター
- 8 教育学部附属教育支援センター
(教育臨床・教育相談センター)
- 8 教育開発センター
- 8 国際交流センター
- 9 学生センター
- 9 キャリアセンター
- 9 入試センター
- 10 保健管理センター
- 11 教養講義室棟1号館
- 12 教養講義室棟2号館
- 13 第1食堂
- 14 第2食堂
- 15 課外活動共用施設
- 16 プール棟
- 17 アーチェリー場
- 18 学生会館(松江)
- 19 第2体育館
- 20 附属図書館
- 21 総合研究棟
- 22 汽水域研究センター
- 23 総合工学部1号館
- 24 機器分析センター
- 25 総合工学部2号館
- 26 総合工学部3号館
- 27 動物飼育室
- 28 ボイラー室
- 29 ミュージアム
- 30 古代出雲研究施設
- 31 遺伝子実験施設
- 32 環境安全施設
- 33 有機廃液焼却処理棟
- 34 総合情報処理センター
- 35 生物資源科学部1号館
- 36 生物資源科学部2号館
- 37 生物資源科学部3号館
- 38 水利実験室
- 39 農業機械実験室
- 40 林産加工場
- 41 製材室
- 42 器具庫
- 43 温室
- 44 実験家畜舎
- 45 ガラス棟
- 46 圃場
- 47 テニスコート
- 48 第1体育館
- 49 トレーニングセンター
- 50 武道館
- 51 体育器具庫
- 52 運動場
- 53 野球場
- 54 特高受変電棟
- 55 守衛室
- 56 中央監視室
- 57,58,59 薬品庫
- 60 ポンプ室



出雲キャンパス(医学部・医学部附属病院)

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL.0853-23-2111



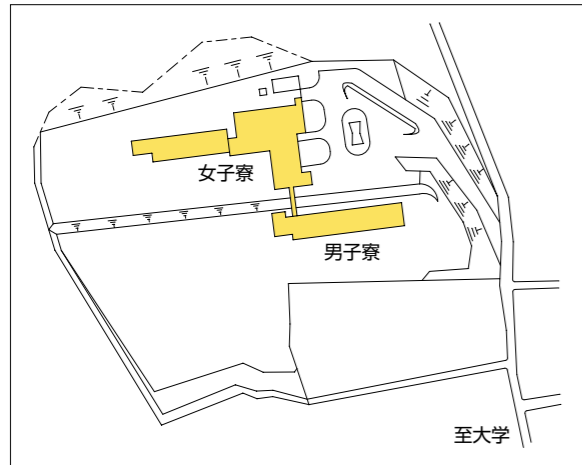
- | | |
|-----------------------|---------------------------------|
| 1 本部棟(医学部) | 15 体育館 |
| 2 講義棟 | 16 武道館 |
| 3 実習棟 | 17 中央機械室 |
| 4 基礎研究棟 | 18 看護師宿舎 |
| 5 臨床研究棟 | 19 医学部会館 |
| 6 共同研究棟 | 19 うさぎ保育所 |
| 7 第二研究棟 | 20 MRI-CT装置棟 |
| 8 総合科学研究支援センター(出雲地区) | 21 病室 |
| 8 RI・動物実験施設 | 22 第三研究棟 |
| 9 附属図書館(医学分館) | 23 RI研究棟 |
| 10 外来・中央診療棟 | 24 塵芥焼却炉室 |
| 11 病棟 | 25 国際交流会館(出雲) |
| 12 RI高エネルギー棟 | 26 看護学科棟 |
| 13 臨床講義棟 | 27 産学連携センター(出雲)
(地域医学共同研究部門) |
| 14 学生会館(出雲) | 28 特高受変電棟 |
| 14 保健管理センター(出雲保健センター) | |



その他の地区

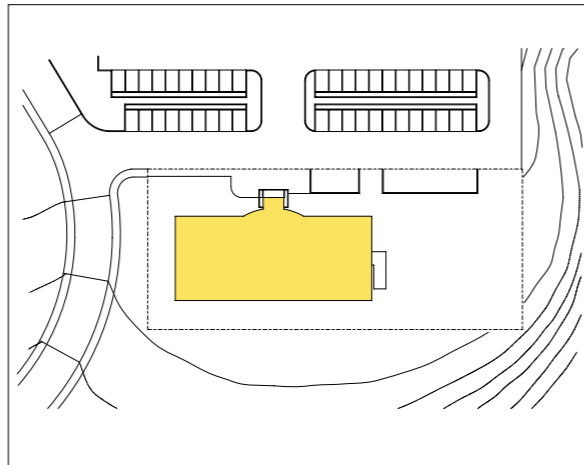
深町地区(学寮)

〒690-0823 松江市西川津町字深町3371-1
TEL.0852-21-3118



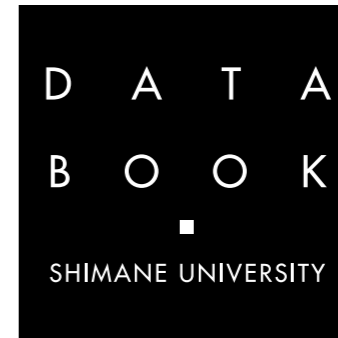
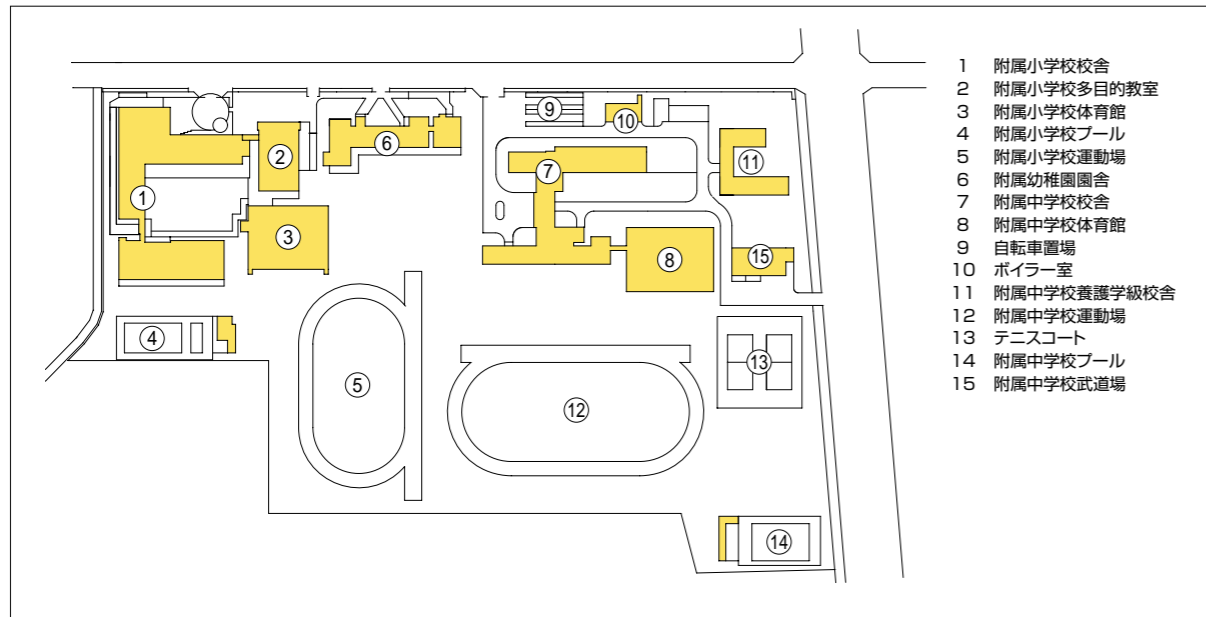
北陵地区(産学連携センター・松江キャンパス)

●地域産業共同研究部門・知的財産創活部門・連携企画推進部門
〒690-0816 松江市北陵町2 TEL.0852-60-2290



大輪地区(附属学校)

教育学部附属小学校 / 〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1200
教育学部附属中学校 / 〒690-0824 松江市菅田町167-1 TEL.0852-29-1300
教育学部附属幼稚園 / 〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1120



島根大学データブック
2008

部局名	所在地	電話番号
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター		
本部	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
森林科学部門 三瓶演習林	〒694-0003 大田市三瓶町多根イ47-1	0854-86-0011
農業生産科学部門 本庄総合農場	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
// 神西砂丘農場	〒699-0822 出雲市神西沖町字蛇島2473-1	0853-43-2081
海洋生物科学部門 隠岐臨海実験所	〒685-0024 隠岐郡隠岐の島町加茂194	08512-2-1814
汽水域研究センター 中海分室	〒690-1401 松江市八束町江島字南土手附694	0852-76-9007
国際交流会館	〒690-0824 松江市菅田町字ドンド320	0852-25-9530

D A T A B O O K

目次・学年暦 1
 沿革 2
 沿革図 3
 運営組織図 5
 役職員 7
 経営協議会委員等 8
 教職員数 9
 学部・大学院 10
 附属図書館 11
 附属病院 12
 学生数 13
 附属学校児童・生徒・幼児数 14
 入学者選抜試験実施状況 15
 卒業生数・修了者数 19
 博士の学位授与状況 20
 卒業・修了後の状況 21
 公開講座・公開授業 23
 科学研究費補助金等の受入状況 24
 収入・支出決算額 25
 外国人留学生の受入状況 26
 外国への留学状況 27
 外国人研究者の受入状況 27
 奨学生数 27
 定期刊行文献 28
 土地・建物 29
 連絡先一覧 30
 アクセス 31
 鳥根大学周辺案内 32

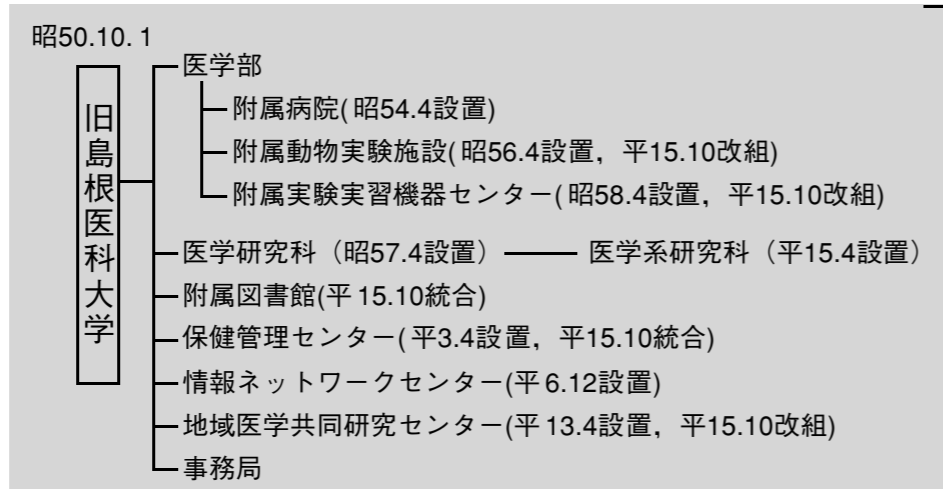
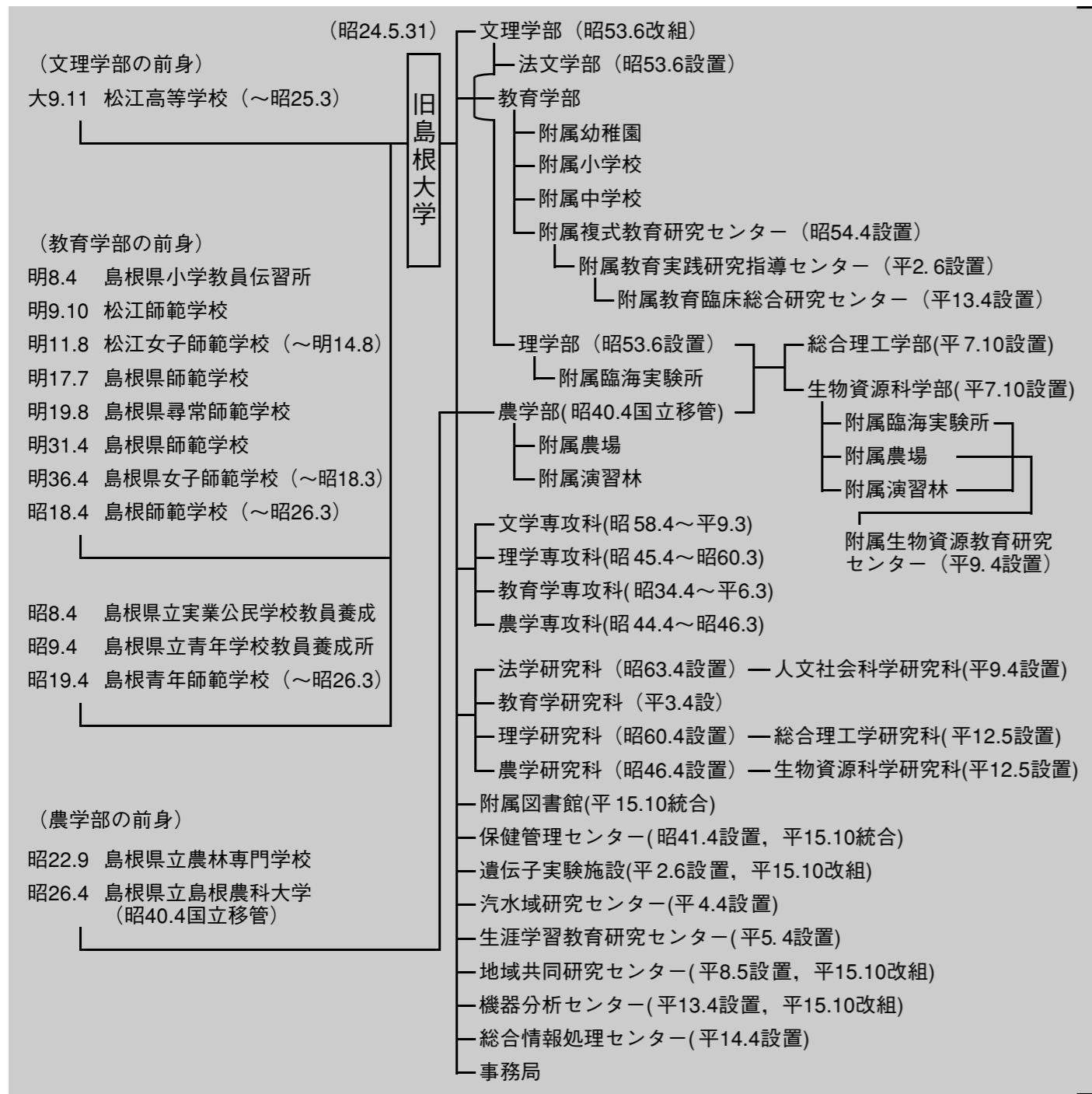
学 年 暦

4月1日	学年始 前期始
4月4日	入学式
8月6日～9月30日	夏季休業
9月30日	前期終
10月1日	後期始 開学記念日
10月10日～13日	大学祭(松江)
10月18日～19日	大学祭(出雲)
12月23日～1月5日	冬季休業
3月20日	学位授与式(出雲)
3月25日	学位授与式(松江)

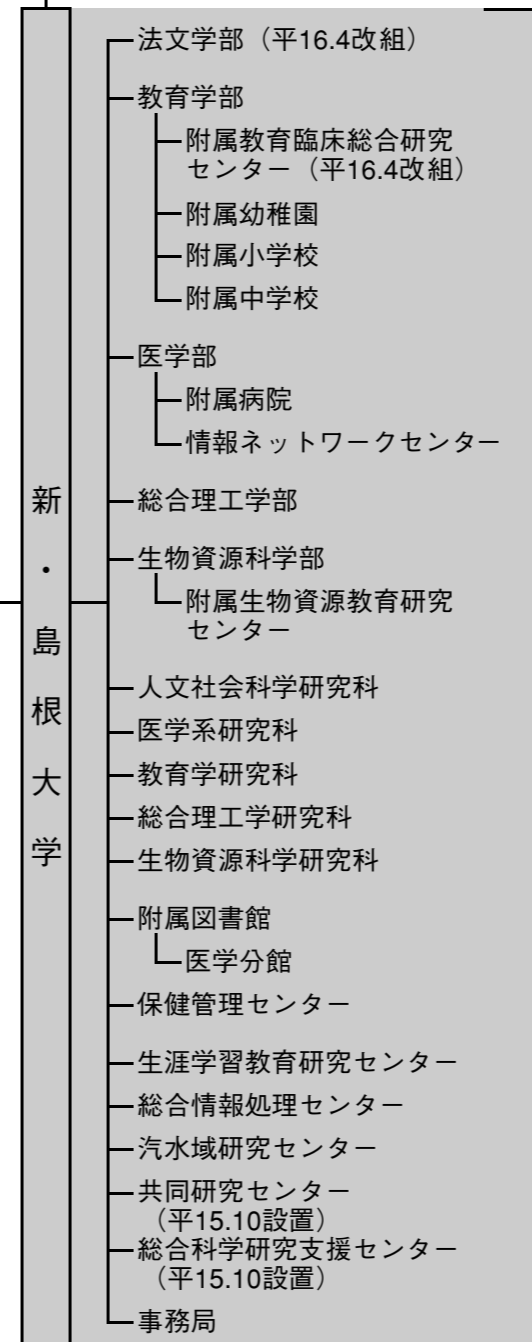
年 月	旧鳥根大学	旧鳥根医科大学
昭和24年 5月	旧制松江高等学校、鳥根師範学校、鳥根青年師範学校を母体として、文理学部、教育学部からなる新制大学として発足	
昭和40年 4月	鳥根県立鳥根農科大学を国立移管し、農学部を設置	
昭和41年 4月	保健管理センター設置	
昭和42年 6月	農学部附属農場・農学部附属演習林設置	
昭和46年 4月	大学院農学研究科設置(平成12年生物資源科学研究科に拡充改組)	
昭和50年10月		鳥根医科大学設置
昭和53年 4月		RI 実験施設設置
昭和53年 6月	文理学部を改組し、法文学部と理学部設置	
昭和54年 4月	教育学部附属複式教育研究センター設置	医学部附属病院設置
昭和56年 4年		医学部附属動物実験施設設置
昭和57年 4月		大学院医学研究科博士課程設置
昭和58年 4月		医学部附属実験実習機器センター設置
昭和60年 4月	大学院理学研究科設置(平成12年総合理工学研究科に拡充改組)	
昭和63年 4月	大学院法学研究科設置(平成9年人文社会科学研究科に拡充改組)	
平成元年 4月	鳥根大学、鳥取大学、山口大学の協力のもとに大学院連合農学研究科博士課程を鳥取大学に設置	
平成 2年 6月	遺伝子実験施設設置 教育学部附属教育実践研究指導センター設置	
平成 3年 4月	大学院教育学研究科設置	保健管理センター設置
平成 4年 4月	汽水域研究センター設置	
平成 5年 4月	生涯学習教育研究センター設置	
平成 6年12月		情報ネットワークセンター設置
平成 7年 2月		特定機能病院として承認
平成 7年10月	理学部と農学部を融合・改組し、総合理工学部と生物資源科学部設置	
平成 8年 5月	地域共同研究センター設置	
平成 9年 4月	大学院人文社会科学研究科設置 附属生物資源教育研究センター設置	
平成11年 4月		医学部看護学科設置
平成12年 4月	大学院総合理工学研究科設置 大学院生物資源科学研究科設置	
平成13年 4月	教育学部附属教育臨床総合研究センター設置 機器分析センター設置	地域医学共同研究センター設置
平成14年 4月	大学院総合理工学研究科を博士課程に改組 総合情報処理センター設置	
平成15年 4月		大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称し、看護学専攻(修士課程)設置

年 月	鳥 根 大 学
平成15年10月	旧鳥根大学と旧鳥根医科大学を統合し、新鳥根大学を設置 共同研究センター・総合科学研究支援センター設置
平成16年 3月	鳥根大学・寧夏大学国際共同研究所設置
平成16年 4月	国立大学法人法の施行により、国立大学法人鳥根大学となる 大学院法務研究科設置、大学院医学系研究科に医科学専攻(修士課程)を設置 教育学部附属教育支援センター設置、医学部教育企画開発室設置 外国語教育センター設置、法文学部山陰研究センター設置
平成16年10月	共同研究センターを改組し、産学連携センターを設置、評価室設置、総合企画室設置
平成16年12月	教育開発センター設置、入試センター設置
平成17年 3月	プロジェクト研究推進機構設置
平成17年10月	キャリアセンター設置
平成18年 4月	ミュージアム設置、国際交流センター設置
平成19年 4月	教育学部附属教師教育研究センター設置
平成19年 6月	教育学部附属FD戦略センター設置
平成20年 7月	男女共同参画推進室設置

沿革図



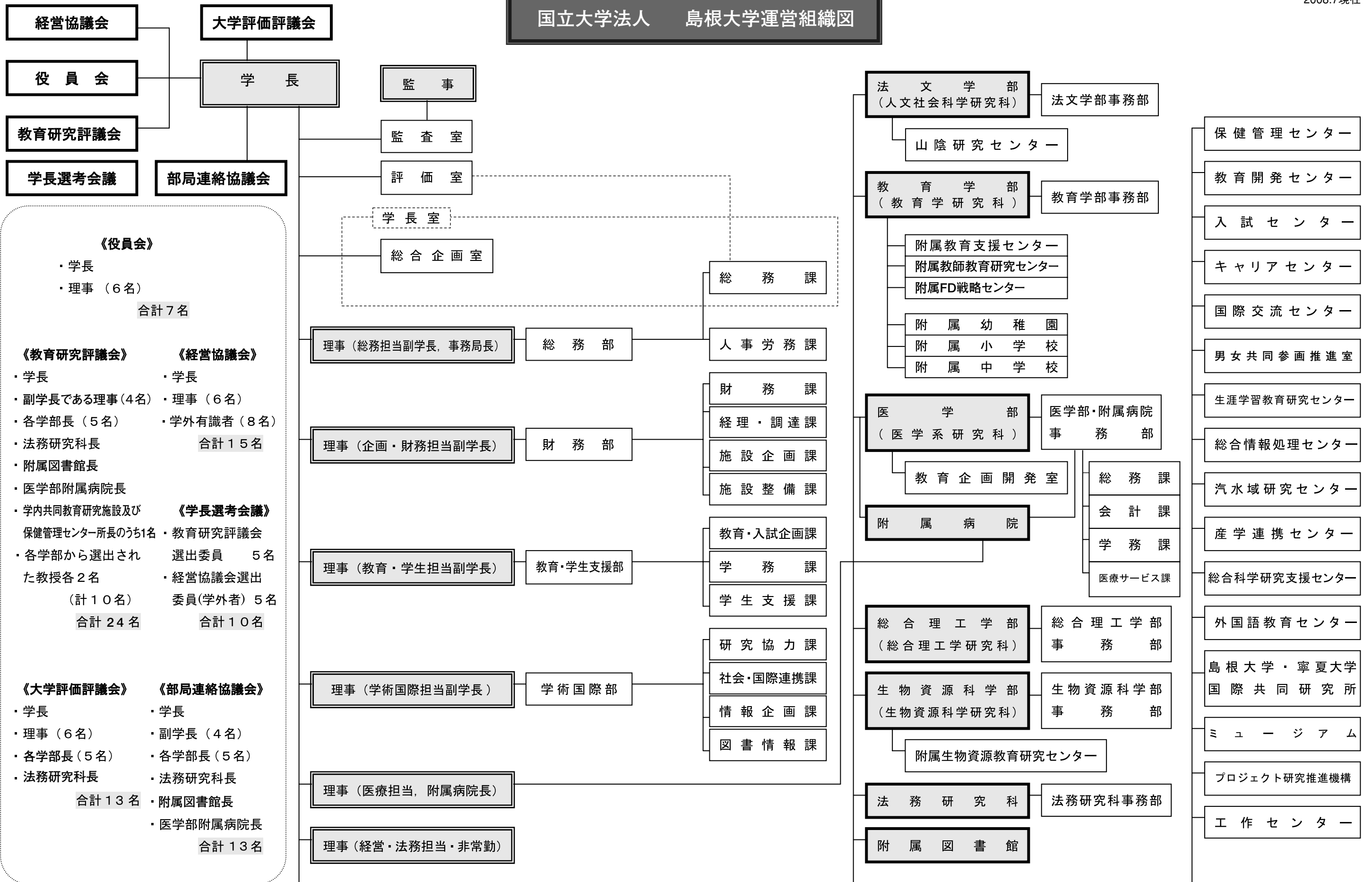
(平15.10.1統合)



(平16.4.1法人化)



国立大学法人 島根大学運営組織図



■学 長			
学 長	本 田 雄 一		
■理 事			
理事(企画・財務担当副学長)	山 本 廣 基		
理事(教育・学生担当副学長)	坂 本 一 光		
理事(学術国際担当副学長)	高 安 克 已		
理事(医療担当)	小 林 祥 泰		
理事(総務担当副学長)	松 本 次 好		
理事(非常勤)(経営・法務担当)	井 原 紀 雄		
■監 事			
監事	山 崎 征 爾		
監事(非常勤)	宮 脇 和 秀		
■事務局長			
事務局長	松 本 次 好		
■副学長の下に置く部			
総務担当副学長			
総務部			
総務部長	鈴 木 武 章		
総務課長	村 上 賀		
人事労務課長	田 中		
企画・財務担当副学長			
財務部			
財務部長	木 村 哲 規		
財務課長	今 野 恵 力		
経理・調達課長	藤 原 智 吉		
施設企画課長	上 野 浩 一		
施設整備課長	浅 沼		
教育・学生担当副学長			
教育・学生支援部			
教育・学生支援部長	小 西 康 行		
教育・入試企画課長	前 田 佳 哲		
学務課長	後 藤 友 良		
学生支援課長	加 藤 文 夫		
学術国際担当副学長			
学術国際部			
学術国際部長	花 房 茂 俊		
研究協力課長	菊 池 智 之		
社会・国際連携課長	石 橋 公 夫		
情報企画課長	三 原 隆 人		
図書情報課長	野 村 正 人		
■監査室			
室長	鈴 木 武		
■学部・大学院			
法文学部・人文社会科学研究科			
学部長・研究科長	田 坂 郁 夫		
副学部長	加 藤 克 夫		
副学部長	田 籠 博 和		
副学部長	居 石 正 孝		
事務長	尾 原 良 孝		
教育学部・教育学研究科			
学部長・研究科長	高 岡 信 也		
副学部長	秋 重 幸 邦		
副学部長	伊 藤 豊 彦		

副学部長	福 田 哲 之		
副学部長	肥 後 功 一		
附属教育支援センター長	小 川 信 也		
附属教師教育研究センター長	高 岡 信 也		
附属FD戦略センター長	肥 後 功 一		
附属学校部長	多 々 納 道 子		
附属幼稚園長	宮 本 弘 和		
附属小学校長	宮 本 弘 和		
附属中学校長	宮 本 弘 和		
事務長	曳 野 巖		
医学部・医学系研究科			
学部長・研究科長	木 下 芳 一		
副学部長	大 平 明 弘		
副学部長	本 間 良 夫		
附属病院長	小 林 祥 泰		
副病院長	井 川 幹 夫		
副病院長	山 口 清 次		
事務部長	日 出 充 一		
総務課長	佐 藤 宏 通		
会計課長	後 藤 郁 雄		
学務課長	空 俊 雄		
医療サービス課長	田 邊 鉄 太 郎		
総合理工学部・総合理工学研究科			
学部長・研究科長	竹 内 潤		
副学部長	服 部 泰 直		
副学部長	久 保 恭 男		
事務長	井 上 寿 雄		
生物資源科学部・生物資源科学研究科			
学部長・研究科長	谷 口 憲 治		
副学部長	澤 嘉 弘		
副学部長	尾 崎 浩 一		
附属生物資源教育研究センター長	小 葉 田 亨 良		
事務長	伊 藤 一 良		
法務研究科			
研究科長	三 宅 孝 之		
事務長	尾 原 良 孝		
■附属施設・学内共同教育研究施設等			
附属図書館			
附属図書館長	平 川 正 人		
医学分館長	富 岡 治 明		
保健管理センター			
所 長	蘆 田 耕 一		
副所長	杉 本 利 嗣		
総合企画室			
室 長	山 本 廣 基		
評価室			
室 長	高 安 克 已		
教育開発センター			
センター長	坂 本 一 光		
副センター長	山 田 剛 史		

入試センター	坂 本 一 光		
センター長	坂 本 一 光		
キャリアセンター	坂 本 一 光		
センター長	坂 本 一 光		
国際交流センター	高 安 克 已		
センター長	高 安 克 已		
生涯学習教育研究センター	堀 口 淳		
センター長	堀 口 淳		
総合情報処理センター	野 田 哲 夫		
センター長	野 田 哲 夫		
副センター長	野 田 雅 彦		
汽水域研究センター	野 村 律 夫		
センター長	野 村 律 夫		
副センター長	野 國 井 秀 伸		
産学連携センター	久 保 衆 伍		
センター長	久 保 衆 伍		
副センター長	森 田 栄 伸		
総合科学研究支援センター	原 田 孝 之 郎		
センター長	原 田 孝 之 郎		
副センター長	原 廣 光 一		
外国語教育センター	廣 瀬 浩 三		
センター長	廣 瀬 浩 三		
副センター長	西 脇 三 宏		
ミュージアム	松 野 和 輝		
館長	松 野 和 輝		
副館長	會 下 和 宏		
工作センター	山 下 晃 功		
センター長	山 下 晃 功		
プロジェクト研究推進機構	高 安 克 已		
機構長	高 安 克 已		

■経営協議会委員			
学長	本 田 雄 一		
理事(企画・財務担当副学長)	山 本 廣 基		
理事(教育・学生担当副学長)	坂 本 一 光		
理事(学術国際担当副学長)	高 安 克 已		
理事(医療担当)	小 林 祥 泰		
理事(総務担当副学長)	松 本 次 好		
理事(非常勤)(経営・法務担当)	井 原 紀 雄		
山陰中央テレビジョン放送(株)代表取締役社長	有 澤 寛		
島根県立大学長	宇 野 重 昭		
一畑電気鉄道(株)代表取締役	大 谷 厚 郎		
島根県病院事業管理者	中 川 正 久		
島根県弁護士会 弁護士	中 村 寿 敦		
キャスター・エッセイスト	福 島 敦 子		
松江市長	松 浦 正 敬		
独立行政法人宇宙航空研究開発機構副理事長	間 宮 馨		

■教育研究評議会評議員			
学長	本 田 雄 一		
理事(企画・財務担当副学長)	山 本 廣 基		
理事(教育・学生担当副学長)	坂 本 一 光		
理事(学術国際担当副学長)	高 安 克 已		
理事(医療担当)	小 林 祥 泰		
理事(総務担当副学長)	松 本 次 好		
法文学部長	田 坂 郁 夫		
教育学部長	高 岡 信 也		
医学部長	木 下 芳 一		
総合理工学部長	竹 内 潤 治		
生物資源科学部長	谷 口 憲 治		
法務研究科長	三 宅 孝 之		
附属図書館長	平 川 正 人		
総合情報処理センター長	野 田 哲 夫		
教授 法文学部	加 藤 克 夫		
教授 法文学部	田 籠 博 彦		
教授 教育学部	伊 藤 豊 彦		
教授 教育学部	肥 後 功 一		
教授 医学部	大 谷 浩 平		
教授 医学部	高 田 晃 一		
教授 総合理工学部	横 田 修 郎		
教授 総合理工学部	土 屋 敏 章		
教授 生物資源科学部	荒 瀬 榮 博		
教授 生物資源科学部	野 中 資 博		

教職員数

2008.5.1現在

区分	役員			教育職員										一般職員							医療職員			特別職員	合計	
	学長	理事	監事	小計	教授	准教授	講師	助教授	校長	副校長・副園長	主幹教諭	指導教諭	養護教諭	小計	事務職員	技術職員	図書職員	技能職員	労務職員	教務職員	小計	医療技術職員	看護職員			小計
学長	1			1																					1	
理事		6		6																					6	
監事			2	2																					2	
事務局長																									0	
監査室															2							2			2	
評価事務室																									0	
副学長の下に置く部	総務部	総務部長													1										1	
		総務課													16		2								18	18
		人事労務課													19										19	19
	財務部	財務部長													1											1
		財務課													9											9
		経理・調達課													17											17
	教育・学生支援部	施設企画課													7	9			2							18
		施設整備課													1	15										16
		教育・学生支援部長													1											1
	学術国際部	教育・入試企画課													12											12
		学務課													20											20
		学生支援課													12								1	1		13
		学術国際部長													1											1
研究協力課														9	2					1	12				12	
学術国際部	社会・国際連携課													6											6	
	情報企画課													5	3						1	9			9	
	図書情報課													5		14									19	
法文学部				35	28	5							68	6											74	
教育学部				46	27	8							81	9											90	
附属幼稚園								1	1	5	1	8													8	
附属小学校								1	2	2	22	1	28	1											29	
附属中学校								1	1	2	1	23	2	30	1										31	
医学部				50	33	10	77						170	100	37		5		6	148					318	
附属病院				2	8	32	59						101	1	1	13				15	100	402	502		618	
総合理工学部				59	40	7	12						118	8	3					3	14				132	
生物資源科学部				35	36	2	13						86	11	14						25				111	
法務研究科				13	3	1							17	2							2				19	
保健管理センター				2		1							3									1	2	3	6	
総合企画室				1									1												1	
評価室							1						1												1	
教育開発センター					1	2							3												3	
入試センター				1									1												1	
キャリアセンター				1									1												1	
国際交流センター				1									1												1	
生涯学習教育研究センター				1	1								2												2	
総合情報処理センター					1								1												1	
汽水域研究センター				2	3								5												5	
産学連携センター				3		1							4												4	
総合科学研究支援センター				1	2		4						7												7	
外国語教育センター				4	7								11												11	
寧夏国際共同研究所																										
ミュージアム					1								1												1	
プロジェクト研究推進機構																										
合計	1	6	2	9	257	191	70	165	1	3	4	4	50	4	749	283	84	14	20	2	11	414	102	404	506	1,678

(注)1.理事及び監事には、非常勤の理事及び監事各1名を含む。

学部・大学院

■学部

学部	学科・課程	講座
法文学部	法経学科	法経
	社会文化学科	社会文化
	言語文化学科	言語文化
教育学部	学校教育課程	初等教育開発, 心理・発達臨床, 言語文化教育, 共生社会教育, 数理基礎教育, 自然環境教育, 人間生活環境教育, 健康・スポーツ教育, 芸術表現教育
医学部	医学科	基礎医学系 解剖学, 生理学, 生化学, 生命科学 臨床基礎医学系 薬理学, 病理学, 微生物・免疫学 社会医学系 法医学, 環境保健医学, 医療情報学, 医療社会文化学 臨床医学系 内科学, 小児科学, 外科学, 精神医学, 産科婦人科学, 耳鼻咽喉科学, 眼科学, 放射線医学, 麻酔科学, 歯科口腔外科学, 臨床検査医学, 救急医学, 地域医療教育学
		看護学科
総合理工学部	物質科学科	物質構造, 物質設計, 物質機能, 量子物理, 物質化学
	地球資源環境学科	地球物質システム学, 環境地質学, 自然災害工学
	数理・情報システム学科	数理構造, 数理解析, 応用情報学, 計算機科学
	電子制御システム工学科	制御システム工学, 計測システム工学, 電気電子システム工学, 電子デバイス工学
生物資源科学部	材料プロセス工学科	材料工学, 機械加工システム学
	生物科学科	細胞生物学, 生物機能学
	生態環境科学科	環境生物学, 生態環境工学, 森林環境学
	生命工学科	応用生命工学, 生命情報工学
	農業生産学科	食糧生産学, 植物資源開発学, 生産技術管理学
地域開発科学科	農林・資源経済学, 生物環境情報工学, 地域環境工学	

■大学院

研究科	専攻	講座
人文社会科学研究科	法経専攻	法経
	言語・社会文化専攻	言語文化, 社会文化
教育学研究科	教育実践開発専攻	学習開発, 臨床心理, 発達臨床
	教育内容開発専攻	言語系教育, 社会系教育, 数理系教育, 自然系教育, 生活系教育, 健康系教育, 芸術系教育
医学系研究科	医科学専攻	研究者育成コース, 高度臨床医育成コース, 腫瘍専門医育成コース
医学系研究科	看護学専攻	看護技術学, 母子・成人看護学, 地域・高齢者看護学
	博士課程	
総合理工学研究科	マテリアル創成工学専攻	マテリアル開発工学, マテリアル循環プロセス学
	電子機能システム工学専攻	電子情報システム工学, 電子機能集積工学
総合理工学研究科	物質科学専攻	物質構造, 物質設計, 物質機能, 量子物理, 物質化学
	地球資源環境学専攻	地球物質システム学, 環境地質学, 自然災害工学
	数理・情報システム学専攻	数理構造, 数理解析, 応用情報学, 計算機科学
	電子制御システム工学専攻	制御システム工学, 計測システム工学, 電気電子システム工学, 電子デバイス工学
生物資源科学研究科	材料プロセス工学専攻	材料工学, 機械加工システム学
	生物生命科学専攻	課題研究コース, 学術研究コース
	農林生産科学専攻	地域産業人育成コース, 留学生特別コース
法務研究科	環境資源科学専攻	
	法曹養成専攻	
専門職学位課程		

附属図書館

蔵書数 2008.5.1現在

区分	図書(冊)			雑誌(種)		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
本館	605,818	150,380	756,198	8,735	2,931	11,666
医学分館	61,693	55,256	116,949	2,216	1,710	3,926

利用状況 2007年度

区分	入館者数	貸出冊数	図書の貸借		文献複写	
			貸出	借受	受付	依頼
本館	350,163	46,210	332	224	1,263	4,034
医学分館	145,026	13,129	26	14	3,328	4,067

閲覧座席

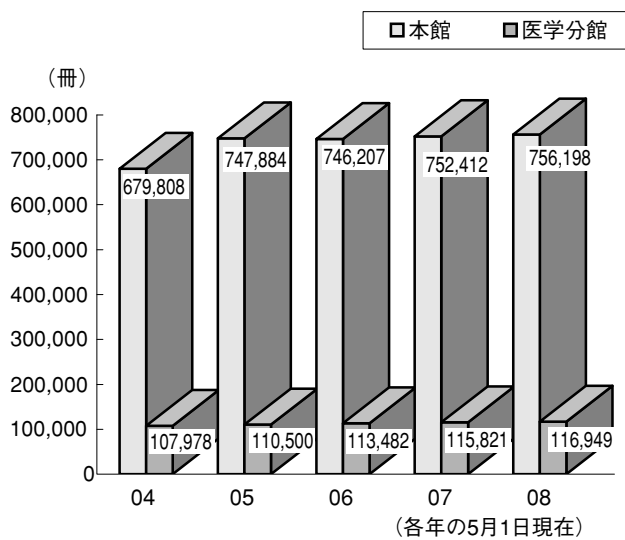
区分	座席数	備考
本館	594	開架閲覧室403席,学習室16席,グループ閲覧室16席,新聞閲覧コーナー20席,ブラウジングコーナー24席,職員閲覧室4席,郷土資料室4席,遺跡資料室8席,八雲文庫室4席,AVルーム14席,情報メディアルーム45席,パソコンコーナー20席,第2貴重資料室2席,書庫内14席
医学分館	280	開架閲覧室173席,ビデオ室9席,自由閲覧室32席,ブラウジングコーナー5席,視聴覚室42席,セミナー室19席

開館時間等

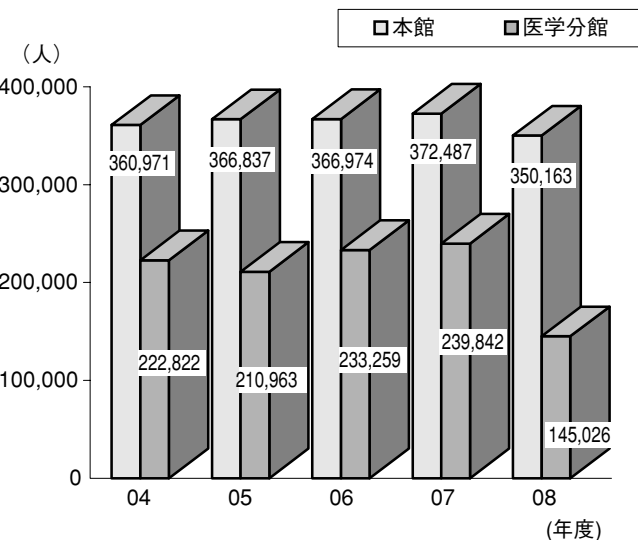
区分	開館時間		休館日
	月曜～金曜	土曜・日曜・定期試験期間中の休日	
本館	8:30～21:30 (休業期は9:00～17:00まで)	10:00～17:30 (休業期は休館)	休業期の土曜・日曜・休日 年末・年始(12月29日～1月4日) 夏季一斉休業(8月13日～15日) 定例図書整理日(偶数月の第4水曜日) 特別整理期間(8月・3月下旬)
医学分館	9:00～20:00	10:00～16:00	年末・年始(12月28日～1月4日) 夏季一斉休業(8月13日～15日) 分館長が必要と認めた日

蔵書数・利用状況の推移

●蔵書数(図書)



●利用状況(入館者数)

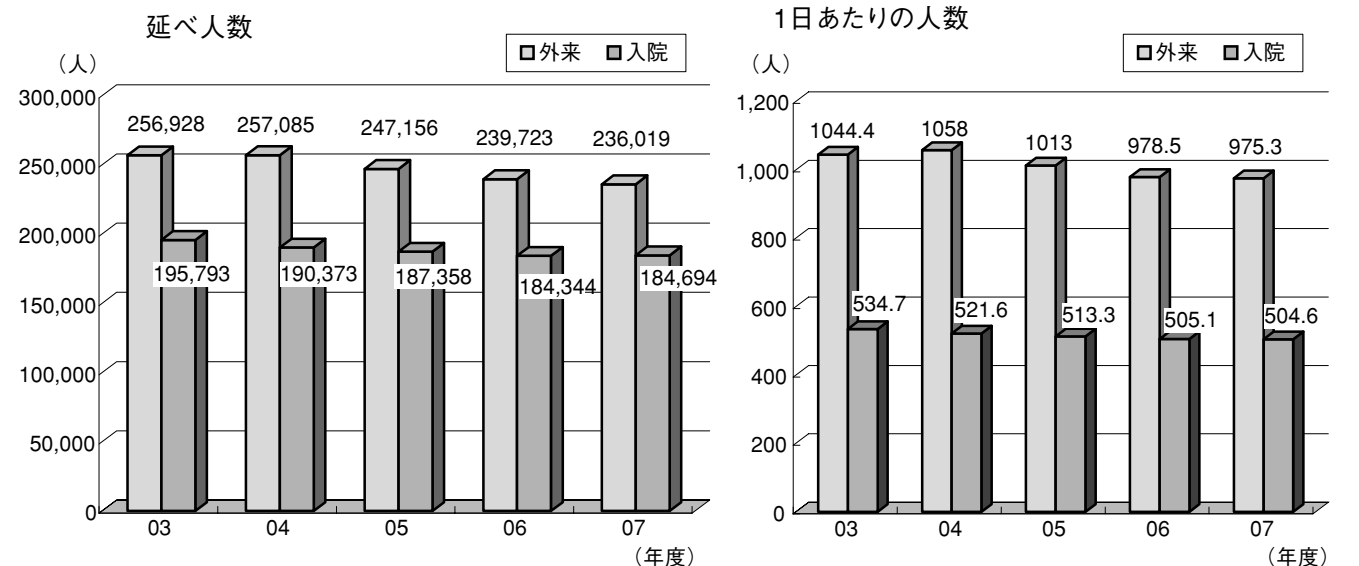


附属病院

附属病院患者数 (2007.4.1～2008.3.31)

診療科名	病床数	外来患者数		入院患者数	
		延数	1日平均数	延数	1日平均数
内分泌代謝・血液内科(4月～7月)		4,563	55.0	3,888	31.9
内分泌代謝内科(8月～3月)	20	7,625	48.0	4,141	17.0
血液内科(8月～3月)	24	3,319	20.9	6,672	27.3
消化器・肝臓内科(4月～7月)		5,481	66.0	5,561	45.6
消化器内科(8月～3月)	44	6,857	43.1	7,237	29.7
肝臓内科(8月～3月)		4,531	28.5	3,315	13.6
神経・血液・膠原病内科(4月～7月)		6,641	80.0	5,568	45.6
神経内科(8月～3月)	33	6,740	42.4	4,855	19.9
膠原病内科(8月～3月)		4,296	27.0	2,146	8.8
呼吸器・腎臓内科(4月～7月)		2,140	25.8	1,871	15.3
呼吸器内科(8月～3月)	12	2,777	17.5	2,859	11.7
腎臓内科(8月～3月)		1,700	10.7	1,254	5.1
循環器内科	34	10,122	41.8	10,466	28.6
皮膚科	16	13,061	54.0	4,933	13.5
小児科	31	14,268	59.0	8,919	24.4
循環器・呼吸器外科(4月～7月)		926	11.2	2,695	22.1
心臓血管外科(8月～3月)	15	1,402	8.8	4,435	18.2
呼吸器外科(8月～3月)	15	678	4.3	2,370	9.7
消化器・総合外科(4月～7月)		5,071	61.1	9,209	75.5
消化器外科(8月～3月)		5,465	34.4	10,792	44.2
肝・胆・膵外科(8月～3月)	70	1,298	8.2	4,442	18.2
小児外科(8月～3月)		546	3.4	599	2.5
乳腺・内分泌外科(8月～3月)		2,061	13.0	1,946	8.0
整形外科	46	17,873	73.9	13,745	37.6
脳神経外科	22	4,619	19.1	7,203	19.7
泌尿器科	22	14,659	60.6	8,068	22.0
精神科神経科	40	14,312	59.1	10,312	28.2
産科婦人科(4月～7月)		4,222	50.9	4,416	36.2
産科(8月～3月)	42	2,563	16.1	2,422	9.9
婦人科(8月～3月)		5,694	35.8	6,493	26.6
耳鼻咽喉科	30	12,544	51.8	8,786	24.0
眼科	22	16,475	68.1	6,946	19.0
放射線科(4月～11月)		5,950	36.3	902	3.7
放射線科(12月～3月)		468	6.0	134	1.1
放射線治療科(12月～3月)	7	2,770	35.5	8	0.1
麻酔科	4	5,698	23.5	1,296	3.5
歯科口腔外科	11	8,496	35.1	2,515	6.9
救急部	2	8,108	33.5	1,275	3.5
共通	31				
Ri・Ra	3				
インキュベーター	5				
NICU	3				
ICU	6				
緊急	2				
産婦センター	4				
計	616	236,019	975.3	184,694	504.6

●患者数の推移



学生数

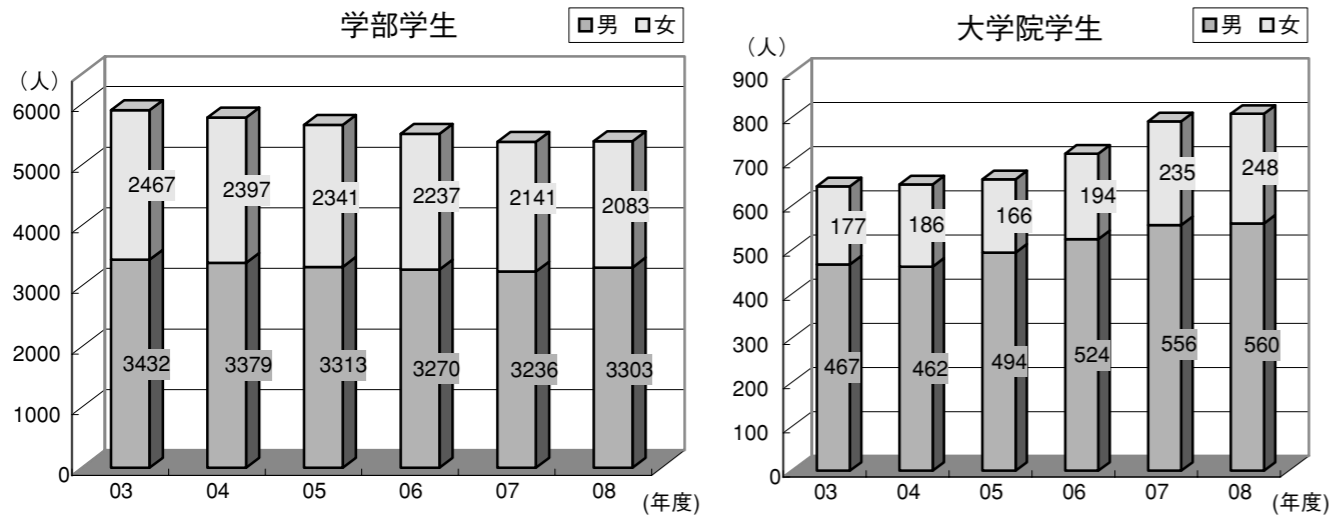
学部

2008.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員		
			男	女	計
法文学部	法経学科	90	245 (1)	141 (1)	386 (2)
	社会文化学科	70	146	169	315
	言語文化学科	65	62 (3)	250 (6)	312 (9)
	法学科	—	21	3	24
	社会システム学科	—	7	1	8
計	225 [10]	920	481 (4)	564 (7)	1,045 (11)
教育学部	学校教育課程	170	303	403	706
	学校教育教員養成課程	—	4	1	5
	生涯学習課程	—	4		4
	生活環境福祉課程	—	4	1	5
	計	170	680	315	405
医学部	医学科	85 [10]	325	252	577
	看護学科	60 [10]	14	254	268
	計	145 [20]	810	339	506
総合理工学部	物質科学科	130	539	70 (1)	609 (1)
	地球資源環境学科	50	152	57 (1)	209 (1)
	数理・情報システム学科	100	377	85	462
	電子制御システム工学科	80	363 (6)	4	367 (6)
	材料プロセス工学科	40	145 (3)	37	182 (3)
計	400 [20]	1,640	1,576 (9)	253 (2)	1,829 (11)
生物資源科学部	生物科学科	30	81	56	137
	生態環境科学科	45	109 (2)	99 (3)	208 (5)
	生命工学科	40	114	68 (2)	182 (2)
	農業生産学科	30	82	63	145
	地域開発科学科	55	186 (5)	54 (1)	240 (6)
計	200 [20]	840	572 (7)	340 (6)	912 (13)
合計	1,140 [70]	4,890	3,283 (20)	2,068 (15)	5,351 (35)

注 1.入学定員欄の【 】は、第3年次編入学定員で外数
2.現員欄の()は、外国人留学生で外数

学部学生・大学院学生数の推移



(注) 2003年度以前は、旧島根大学と旧7島根医科大学の学生の合計数である。

大学院

2008.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員									
			修士課程 博士前期課程			医学博士課程 博士後期課程			専門職学位課程			
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	
人文社会科学 研究科	法経専攻	6	12	3 (1)	1 (5)	4 (6)						
	言語・社会文化専攻	6	12	3	7 (1)	10 (1)						
	計	12	24	6 (1)	8 (6)	14 (7)						
法務研究科	法曹養成専攻	30	90							72	18	90
	計	30	90							72	18	90
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	20	6	10	16						
	教育内容開発専攻	20	20	15	2	17						
	学校教育専攻		5	5	15 (2)	20 (2)						
	教科教育専攻		30	12 (1)	7 (1)	19 (2)						
計	40	75	38 (1)	34 (3)	72 (4)							
医学系研究科	形態系専攻	8	24				25 (4)	8 (3)	33 (7)			
	機能系専攻	15	45				24 (5)	8 (4)	32 (9)			
	生態系専攻	7	21				6	6 (1)	12 (1)			
	医科学専攻	30	30				21 (4)	10 (5)	31 (9)			
	研究者育成コース						12 (4)	6 (5)	18 (9)			
	高度臨床医育成コース						7	3	10			
	腫瘍専門医育成コース						2	1	3			
医科学専攻	15	30	12	13 (1)	25 (1)							
看護学専攻	12	24	1	26	27							
計	57	174	13	39 (1)	52 (1)	76 (13)	32 (13)	108 (26)				
総合理工学 研究科	物質科学専攻	36	72	77	13	90						
	地球資源環境学専攻	14	28	18 (6)	10 (1)	28 (7)						
	数理・情報システム学専攻	28	56	40 (1)	5 (1)	45 (2)						
	電子制御システム工学専攻	22	44	58 (2)	(1)	58 (3)						
	材料プロセス工学専攻	12	24	14 (2)	4 (2)	18 (4)						
	マテリアル創成工学専攻	6	18				13 (9)	1 (4)	14 (13)			
電子機能システム工学専攻	6	18				7	1	8				
計	124	260	207 (11)	32 (5)	239 (16)	20 (9)	2 (4)	22 (13)				
生物資源科学 研究科	生物生命科学専攻	20	20	12	9 (1)	21 (1)						
	農林生産科学専攻	22	22	9 (2)	1 (2)	10 (4)						
	環境資源科学専攻	18	18	16 (1)	8	24 (1)						
	生物科学専攻		12	2	7	9						
	生態環境科学専攻		18	13 (3)	6	19 (3)						
	生命工学専攻		12	7 (2)	3 (4)	10 (6)						
	農業生産学専攻		12	9 (1)	1 (1)	10 (2)						
	地域開発科学専攻		22	15 (1)	7 (1)	22 (2)						
計	60	136	83 (10)	42 (9)	125 (19)							
合計	323	759	347 (23)	155 (24)	502 (47)	96 (22)	34 (17)	130 (39)	72	18	90	

注) 現員欄の()は、外国人留学生で外数

附属学校児童・生徒・幼児数

2008.5.1現在

附属幼稚園

区分	男	女	合計	
3年課程	4才児	10	9	19
	5才児	9	9	18
2年課程	4才児	10	11	21
	5才児	23	13	36
合計	52	42	94	

附属中学校

区分	男	女	合計	
1学年	70	70	140	
2学年	78	80	158	
3学年	77	78	155	
特別支援学級	1学年	1	1	1
	2学年	2	1	3
	3学年	1	3	4
合計	228	233	461	

附属小学校

区分	男	女	合計
1学年	30	29	59
2学年	38	47	85
3学年	41	39	80
4学年	34	45	79
5学年	38	41	79
6学年	40	42	82
特別支援学級	1組	1	1
	2組	1	1
合計	223	243	466

入学者選抜試験実施状況(2008年度入学)

学部

学部・学科・課程	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学者出身別(%)		
						県内	県外	
法文学部	法経学科	90	614	344	112	92	29	71
	社会文化学科	70	344	231	80	73		
	言語文化学科	65	381	272	78	71		
	計	225	1339	847	270	236		
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	130	504	313	148	135	44	56
	学校教育課程Ⅱ類	16	79	54	17	16		
	健康・スポーツ教育専攻	16	44	38	17	17		
	音楽教育専攻	8	46	27	8	7		
	美術教育専攻	8	46	27	8	7		
	計	170	673	432	190	175		
医学部	医学科	85	553	509	85	85	35	65
	看護学科	60	153	92	66	62		
	計	145	706	601	151	147		
総合理工学部	物質科学科	130	524	332	162	144	25	75
	地球資源環境学科	50	249	177	54	50		
	数理・情報システム学科	100	321	212	118	107		
	電子制御システム工学科	80	365	180	92	86		
	材料プロセス工学科	40	115	112	54	44		
	計	400	1,574	1,013	480	431		
生物資源科学部	生物科学科	30	111	110	36	32	18	82
	生態環境科学科	45	150	148	54	45		
	生命工学科	40	143	137	47	42		
	農業生産学科	30	191	184	35	30		
	地域開発科学科	55	101	97	69	58		
	計	200	696	676	241	207		
合計	1,140	4,988	3,569	1,332	1,196	29	71	

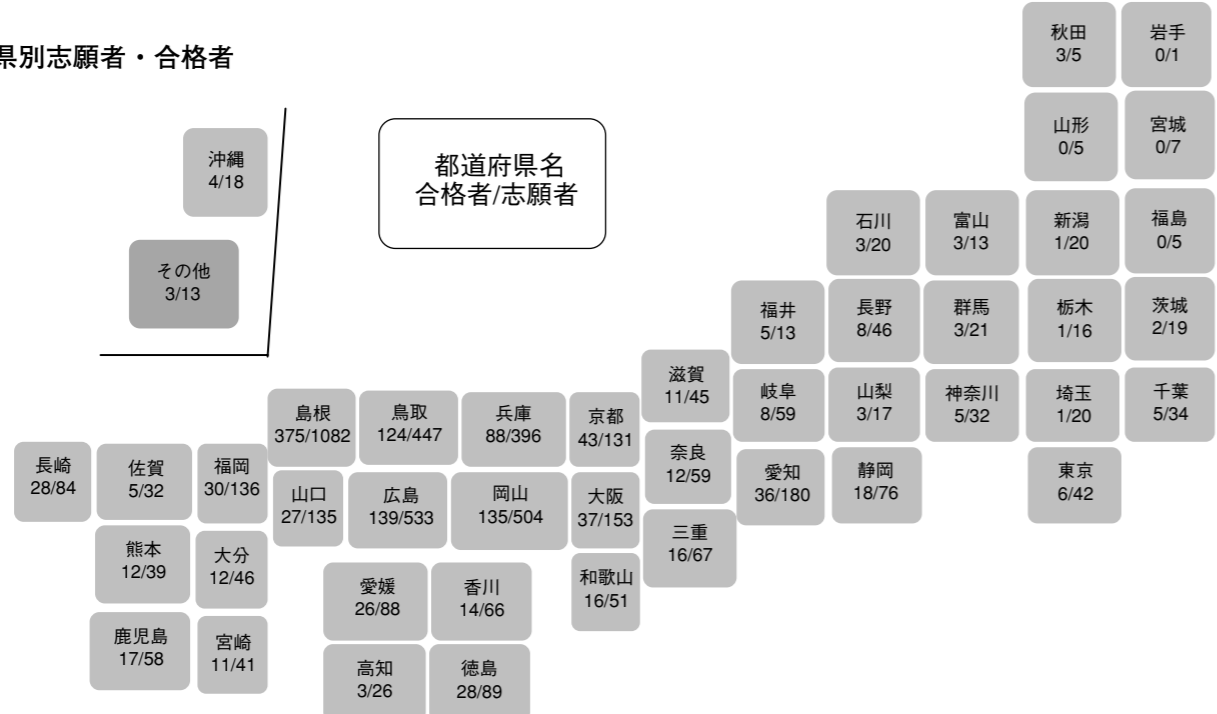
私費外国人留学生特別選抜

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	若干名	12	12	10	7
総合理工学部	若干名	14	14	9	2
生物資源科学部	若干名	12	12	5	4
合計		38	38	24	13

北海道
5/24

青森
0/1

都道府県別志願者・合格者



内訳

(1) 一般選抜

学部・学科・課程	試験日程	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者	
法文学部	法経学科	前期	45	128	117	55		81
		後期	35	459	200	46		
	社会文化学科	前期	45	114	109	52		65
		後期	20	200	92	20		
	言語文化学科	前期	40	187	177	53		66
		後期	20	176	77	20		
	計	130	429	403	160	0	212	
		75	835	369	86			
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	前期	90	186	166	100		111
		後期	16	259	88	24		
	学校教育課程Ⅱ類	前期	8	30	28	9		12
		後期	4	43	20	4		
	健康・スポーツ教育専攻	前期	8	27	21	9		9
		後期	4	15	13	4		
音楽教育専攻	前期	4	15	13	4		5	
	後期	2	27	10	2			
	計	110	258	228	122	0	137	
		22	329	118	30			
医学部	医学科	前期	55	480	438	55		55
		後期	37	50	40	38		
	看護学科	前期	10	66	17	14		48
		後期	10	66	17	14		
	計	92	530	478	93	0	103	
		10	66	17	14			
総合理工学部	物質科学科	前期	85	235	217	106		113
		後期	20	235	62	25		
	地球資源環境学科	前期	28	144	133	29		37
		後期	10	87	27	12		
	数理・情報システム学科	前期	46	101	90	54		72
		後期	20	156	58	29		
	電子制御システム工学科	前期	40	66	58	48		57
		後期	15	250	73	15		
	材料プロセス工学科	前期	23	62	59	34		29
		後期	5	33	33	5		
	計	222	608	557	271	0	308	
		70	761	253	86			
生物資源科学部	生物科学科	前期	17	58	57	23		24
		後期	5	35	35	5		
	生態環境科学科	前期	30	47	45	34	1	35
		後期	5	70	70	9		
	生命工学科	前期	29	94	88	36		36
		後期	5	37	37	5		
	農業生産学科	前期	17	77	70	19	1	22
		後期	5	98	98	7		
	地域開発科学科	前期	30	50	46	39		39
		後期	5	30	30	11		
	計	123	326	306	151	2	156	
		25	270	270	37			
合計		879	4,412	2,999	1,050	2	916	

(2) 専門高校・総合学科卒業生選抜

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部 看護学科	3以内	6	4	4	4
合計	3以内	6	4	4	4

(3) 推薦入学Ⅰ

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法文学部	法経学科	10	27	27	11	11
	社会文化学科	5	30	30	8	8
	言語文化学科	5	18	18	5	5
	計	20	75	75	24	24
総合理工学部	物質科学科	10	28	27	12	12
	地球資源環境学科	7	7	7	7	7
	数理・情報システム学科	24	45	45	24	24
	電子制御システム工学科	10	30	30	14	14
	材料プロセス工学科	12	20	20	15	15
	計	63	130	129	72	72
生物資源科学部	生物科学科	8	18	18	8	8
	生態環境科学科	10	33	33	10	10
	生命工学科	6	12	12	6	6
	農業生産学科	8	16	16	8	8
	地域開発科学科	20	21	21	19	19
	計	52	100	100	51	51
合計	135	305	304	147	147	

(4) 推薦入学Ⅱ

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	24	59	59	24	24
	学校教育課程Ⅱ類	4	6	6	4	4
	健康・スポーツ教育専攻	8	17	17	8	8
	音楽教育専攻	2	4	4	2	2
	美術教育専攻	38	86	86	38	38
医学部	医学科	20	58	56	20	20
	看護学科	10	31	31	10	10
総合工学部	物質科学科	15	26	26	19	19
	数理・情報システム学	10	19	19	11	11
	電子制御システム工学	15	19	19	15	15
	計	40	64	64	45	45
合計	108	239	237	113	113	

(5) 地域枠推薦入学

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部	医学科	10	15	15	10	10
合計		10	15	15	10	10

(6) A O入試

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
総合工学部	地球資源環境学科	5	11	10	6	6
合計		5	11	10	6	6

(7) 社会人特別選抜

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	法経学科	若干名	0	—	—	—
	社会文化学科	若干名	0	—	—	—
	言語文化学科	若干名	0	—	—	—
合計		0	—	—	—	

(8) 帰国子女特別選抜

学部		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部		若干名	0	—	—	—
生物資源科学部		若干名	0	—	—	—
合計		0	—	—	—	

■第3年次編入学

学部・学科		区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法文学部	言語文化学科	一般	10	16	13	5	4	
		一般		9	9	3	3	
		一般		17	17	10	9	
医学部	看護学科	一般	20	42	39	18	16	
		学士入学		10	261	188	17	10
		一般		10	28	28	16	10
総合工学部	物質科学科	推薦	20	2	2	2	2	
		一般		0	—	—	—	
		一般		0	—	—	—	
		推薦		10	10	9	9	7
		推薦		0	—	—	—	
		一般		7	7	4	3	
		一般		4	4	4	4	
合計	20	27	26	23	20			
生物資源科学部	生命工学科	推薦	20	0	—	—	—	
		一般		5	5	4	3	
		推薦		3	3	3	2	
		一般		9	8	5	4	
		推薦		1	1	1	1	
		一般		2	1	1	0	
総合工学部	材料プロセス工学科	推薦	20	2	2	2	2	
		推薦		10	6	4	4	
		推薦		4	4	2	2	
		一般		2	2	1	1	
合計	20	38	32	23	19			
合計	70	396	313	97	75			

■大学院

区分		入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
人文社会科学部	法経専攻	6	8	7	5	4
	言語・社会文化専攻	6	9	9	2	2
計		12	17	16	7	6
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	50	44	20	16
	教育内容開発専攻	20	18	18	17	17
計		40	68	62	37	33
医学系研究科(博士課程)	医科学専攻	30	42	42	41	40
	計	30	42	42	41	40
医学系研究科(修士課程)	医科学専攻	15	14	13	13	13
	看護学専攻	12	10	10	10	10
計		27	24	23	23	23
総合工学部研究科(博士後期課程)	マテリアル創成工学専攻	6	4	4	4	4
	電子機能システム工学専攻	6	1	1	1	1
計		12	5	5	5	5
総合工学部研究科(博士前期課程)	物質科学専攻	36	65	59	48	40
	地球資源環境学専攻	14	13	13	13	13
	数理・情報システム学専攻	28	28	28	24	22
	電子制御システム工学専攻	22	36	36	33	33
	材料プロセス工学専攻	12	10	10	10	10
計		112	152	146	128	118
生物資源科学部研究科	生物生命科学専攻	20	27	26	26	22
	農林生産科学専攻	22	16	15	15	14
	環境資源科学専攻	18	27	26	26	25
計		60	70	67	67	61
法務研究科	法曹養成専攻	30	84	75	44	30
合計		323	462	436	352	316

■2009年度入学者選抜試験日程(予定)

区分		募集要項発表	願書受付期間	試験実施日	合格発表
特別選抜	帰国子女(秋季入学)(生物資源科学部)	4月中旬	6月16日～6月20日	7月12日	7月18日
	社会人入学(法文学部)	7月下旬	11月4日～11月10日	11月29日	12月4日
	推薦入学Ⅰ(法文学部)		11月4日～11月10日	11月29日	12月4日
	推薦入学Ⅰ(総合工学部、生物資源科学部)		11月4日～11月10日	11月27日・28日	12月4日
	推薦入学Ⅱ(教育学部)		11月4日～11月10日	12月13日	2月10日
	推薦入学Ⅱ(医学部)		11月4日～11月10日	12月13日	2月10日
	推薦入学Ⅱ(総合工学部)		1月22日～1月28日	2月6日	2月10日
地域枠推薦入学(医学部医学科)	3月上旬		11月4日～11月10日	12月13・14日	2月10日
緊急医師確保対策枠推薦入学(医学部医学科)	7月上旬	11月4日～11月10日	12月13・14日	2月10日	
一般選抜	私費外国人留学生(法文学部、総合工学部、生物資源科学部)	7月下旬	12月5日～12月11日	書類選考	1月21日
	帰国子女(法文学部)		11月4日～11月10日	11月29日	12月4日
	前期日程(全学部)		10月中旬	1月26日～2月4日	2月25・26日
後期日程(全学部)	1月26日～2月4日	3月12日		3月22日	
専門高校・総合学科卒業生選抜(医学部看護学科)		4月中旬	1月26日～2月4日	2月25・26日	3月6日
A O入試(総合工学部 地球資源環境学科)			7月18日～7月25日	9月29・30日	10月10日

卒業生数・修了者数

学部 2008.3.31現在

区 分		2007年度 卒業生	累 計
法 文 学 部	法 經 学 科	78	78
	社 会 文 化 学 科	58	58
	言 語 文 化 学 科	65	659
	法 学 科	18	3,970
	社 会 シ ス テ ム 学 科	17	756
	文 学 科	-	1,586
	計	236	7,107
教 育 学 部	学 校 教 育 課 程	178	178
	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	5	1,090
	生 涯 学 習 課 程	3	525
	生 活 環 境 福 祉 課 程	3	171
	小 学 校 教 員 養 成 課 程	-	4,790
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	-	2,546
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	-	570
	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	-	574
	特 別 教 科 (音 楽) 校 教 員 養 成 課 程	-	1,152
	特 別 教 科 (保 健 体 育) 校 教 員 養 成 課 程	-	856
	社 会 教 育 文 化 課 程	-	398
	計	189	12,850
医 学 部	医 学 科	89	2,585
	看 護 学 科	63	404
	計	152	2,989
総 合 理 工 学 部	物 質 科 学 科	109	1,023
	地 球 資 源 環 境 学 科	41	381
	数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 科	94	788
	電 子 制 御 シ ス テ ム 工 学 科	82	601
	材 料 プ ロ セ ス 工 学 科	43	383
計	369	3,176	
生 物 資 源 科 学 部	生 物 科 学 科	27	267
	生 態 環 境 科 学 科	51	456
	生 命 工 学 科	44	365
	農 業 生 産 学 科	34	291
	地 域 開 発 科 学 科	68	508
計	224	1,887	
文 理 学 部		-	3,950
理 学 部		-	3,510
農 学 部		-	5,141
合 計		1,170	40,610

専攻科他

区 分	2007年度 修了者	累 計
文 学 専 攻 科	-	18
理 学 専 攻 科	-	45
教 育 専 攻 科	-	232
農 学 専 攻 科	-	11
合 計	-	306
教 育 学 部 教 員 養 成 2年 課 程	-	1,106

大学院 2008.3.31現在

区 分		2007年度修了者 (単位取得退学を含む)	累 計
人 文 社 会 科 学 研 究 科	法 經 専 攻	7	15
	言 語 ・ 社 会 文 化 専 攻	8	20
	法 学 専 攻	-	56
	社 会 シ ス テ ム 専 攻	-	43
	言 語 文 化 専 攻	-	32
	計	15	166
教 育 学 研 究 科	学 校 教 育 専 攻	12	165
	教 科 教 育 専 攻	20	391
	計	32	556
医 学 系 研 究 科	形 態 系 専 攻	8	126
	機 能 系 専 攻	7	140
	生 態 系 専 攻	4	43
	計	19	309
	医 科 学 専 攻	8	12
	看 護 学 専 攻	10	33
	計	18	45
総 合 理 工 学 研 究 科	マ テ リ ア ル 創 成 工 学 専 攻	9	27
	電 子 機 能 シ ス テ ム 工 学 専 攻	5	17
	計	14	44
	物 質 科 学 専 攻	47	272
	地 球 資 源 環 境 学 専 攻	16	112
	数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 専 攻	25	156
電 子 制 御 シ ス テ ム 工 学 専 攻	28	172	
材 料 プ ロ セ ス 工 学 専 攻	13	84	
	計	129	796
生 物 資 源 科 学 研 究 科	生 物 科 学 専 攻	8	62
	生 態 環 境 科 学 専 攻	13	113
	生 命 工 学 専 攻	8	95
	農 業 生 産 学 専 攻	12	56
	地 域 開 発 科 学 専 攻	6	46
	計	47	372
法 務 研 究 科	法 曹 養 成 専 攻	18	47
	計	18	47
理 学 研 究 科		-	616
農 学 研 究 科		-	739
法 学 研 究 科		-	80
合 計		292	3,770

博士の学位授与者数

2008.3.31現在

区 分	課程博士		論文博士	
	2007年度	累 計	2007年度	累 計
医 学 系 研 究 科	11	295	9	259
総 合 理 工 学 研 究 科	11	41	0	3

卒業・修了後の状況

学部

2008.5.1現在

区分	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	計
卒業進学者	236	189	152	369	224	1,170
無業者・不詳	17	19	1	140	74	251
就職者	43	19	9	22	23	116
臨床研修医	176	151	60	207	127	721
産別内訳						
農業, 林業					7	7
漁業						0
鉱業, 採石業, 砂利採取業						0
建設業	3	1		21	6	31
製造業	18	9		79	21	127
電気・ガス・熱供給・水道業				2		2
情報通信業	15	4		30	7	56
運輸業, 郵便業	3	3		5	4	15
卸売・小売業	33	5		17	24	79
金融・保険業	26	8		8	7	49
不動産業, 物品賃貸業	2	1		5	2	10
学術研究, 専門・技術サービス業	4	2		1	7	14
宿泊業, 飲食サービス業	5	1		1	3	10
生活関連サービス業, 娯楽業	10	1		2	1	14
教育(学校教育)	8	92	2	8	4	114
学習支援	3	7		3	2	15
医療・福祉業	5	2	58	4	2	71
複合サービス業	7	1		4	10	22
その他のサービス業	7	2		14	10	33
公務(国家)	5	1		1	2	9
公務(地方)	21	11		2	8	42
その他	1					1

大学院

2008.5.1現在

区分	人文社会科学部	教育学研究科	医学系研究科		総合理工学研究科		生物資源科学研究科	法務研究科	計
			修士	博士一貫	博士前期	博士後期			
修了進学者	15	32	18	19	129	11	47	18	289
無業者・不詳	1	1	*3	0	3	0	11	0	19
就職者	4	3	0	3	4	1	5	18	38
臨床研修医	10	28	18	16	122	10	31	0	235
産別内訳									
農業, 林業							1		1
漁業									0
鉱業, 採石業, 砂利採取業					2				2
建設業					7				7
製造業		1	2		72	1	9		85
電気・ガス・熱供給・水道業							2		2
情報通信業	2	1			13		2		18
運輸業, 郵便業	1		1		1				3
卸売・小売業	1				1		4		6
金融・保険業	2								2
不動産業, 物品賃貸業									0
学術研究, 専門・技術サービス業	1	1			7	1	3		13
宿泊業, 飲食サービス業									0
生活関連サービス業, 娯楽業							1		1
教育(学校教育)	1	12	7	6	6	5	4		41
学習支援		3			4		1		8
医療・福祉業		5	8	10					23
複合サービス業					2		1		3
その他のサービス業		3			4	3			10
公務(国家)									0
公務(地方)	2	2			2		3		9
その他					1				1

*進学者3名は、いずれも就職している者であり、進学者及び就職者のそれぞれに計上している。

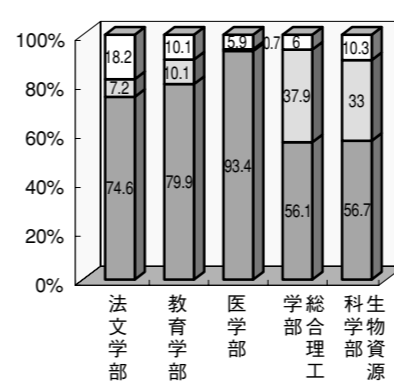
卒業後の主な就職先・進学先

2008.5.1現在

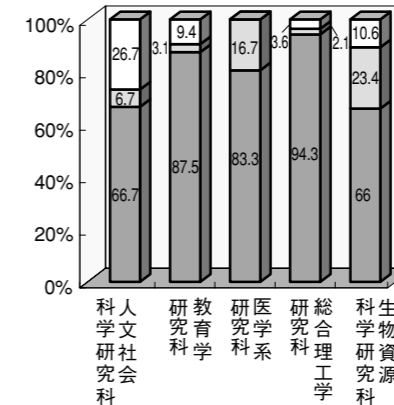
区分	就職先
法文学部	【製造】アストラゼネカ、ジェイ・エム・エス、大真空、常石造船、雲海造船【金融】山陰合同銀行、鳥取銀行、島根銀行、広島銀行、中国銀行、もみじ銀行、十八銀行、宮崎太陽銀行、山梨中央銀行、中国労働金庫、国民生活金融公庫、住宅金融公庫、東京海上日動火災保険、日本生命保険、大同生命保険、大和証券、JCB【運輸・観光】西日本旅客鉄道、阪急交通社、ANAセールス九州、JALスカイ関西、日本トランスシティ、JTB中国・四国【商業】名鉄百貨店、天満屋、日鐵商事、金商、メガネ・バリミキ、ユニクロ【マスコミ】新日本海新聞社【情報】大塚商会【その他】日本郵政グループ、JAくまびき【公務】国立大学法人(島根大学、広島大学)、熊本国税局、松江地方検察庁、松江簡易裁判所、国税専門官、労働基準監督官、鳥取市職員、松江市職員、益田市職員、福山市職員、庄原市職員、和泉市職員、草津市職員、田辺市職員、佐世保市職員、草加市職員、鳥根県警察、鳥取県警察、兵庫県警察 【地元企業】山陰合同銀行、鳥取銀行、島根銀行、新日本海新聞社、JAくまびき(以上再掲)、出雲村田製作所、寿製菓、島根トヨタグループ、彩雲堂、タニダ、明治製作所、山陰三菱電機機器販売、八幡物産、島根CSK
教育学部	【教員】小学校教員、中学校教員、高等学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員【その他】ヤマハ音楽振興会、山陰合同銀行、野村證券、西日本旅客鉄道、中国銀行、出雲村田製作所、東京海上日動火災、日本生命保険、リクルート、高知銀行、イーオン、アルペン、穴吹工務店、ハニーズ【公務】鳥取県職員、島根県警察、浜田市職員、鳥取市職員、浅口市職員、大山町職員、琴浦町職員
医学部	【医師・看護師等】島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、松江赤十字病院、岡山大学病院、倉敷中央病院、広島大学病院、山口赤十字病院、松江市立病院、島根県養護教諭
総合理工学部	【製造】アルバック、NTN、きんでん、北川鉄工所、京セラ、クボタ、神戸製鋼所、参天製薬、JSR、ジーエス・ユアサコーポレーション、SUMCO、シャープ、スズキ、住友電気工業、セイコーエプソン、ダイキン、ダイハツ工業、大日本印刷、太平洋セメント、常石造船、デンソー、帝人、同和鉱業、トキメック、東海ゴム工業、ナカシマプロペラ、ニコン、日東電工、日本IBM、富士重工、ブラザー工業、古河電気工業、マツダ、三菱重工業、三菱自動車工業、三菱製鋼、三浦工業、日立金属、日立建機、ホシザキ電機、安川電機、ユニチカ【その他】西日本旅客鉄道、山陰合同銀行、野村総合研究所、サンゲツ、三井ホーム、日立ソフトウェアエンジニアリング、イオン、メイテック【公務】島根県職員、長崎県職員、宮崎県職員、広島県高校教員、私立中学校・高校教員 【地元企業】山陰合同銀行(再掲) 島根銀行、日本海テレビ、出雲村田製作所、島根富士通、守谷刃物研究所、テクノプロジェクト、ミック、スター精機、山陰ナショナル、JAいずも
生物資源科学部	【食品】日本水産、グリコ栄養食品、寿製菓、オタフクソース、旭食品【化学】ロート製薬、ミルボン、サラヤ、イカリ消毒【建設】鹿島建設、鹿島道路【機械】マツダ、日立金属、東芝メディカルシステムズ、井関農機、常石造船、兼松エンジニアリング【環境・防災】国土防災技術、東芝ナノアナリシス、松下環境空調エンジニアリング、日本ミクニヤ【金融】山陰合同銀行、紀陽銀行、清水銀行【運輸】全日本空輸、西日本旅客鉄道、立山黒部貫光【商事】長野県連合青果、コメリ、カワニシグループ、日立アプライアンス【農協】JAいずも、JAやすぎ、JA岐阜、JAあいち中央、JA全農ミートフーズほか【その他】越前水族館、住友林業フォーレストサービス、サクラケーシーエス、日本郵政グループ、テレビ宮崎【公務】島根県職員、山口県教員、和歌山県職員、愛知県職員、松江市職員、京都市職員、周南市職員、安芸高田市職員、弥富市職員、国立大学法人職員(京都大学・愛媛大学・松江高専)、愛媛県教員、警視庁、自衛隊 【地元企業】山陰合同銀行、寿製菓、JAいずも、JAやすぎ(以上再掲)、中筋組、さんれいフーズ、土江本店、吉浦牧場、日本庭園由志園

卒業後の状況(2008.5.1)

◆学部

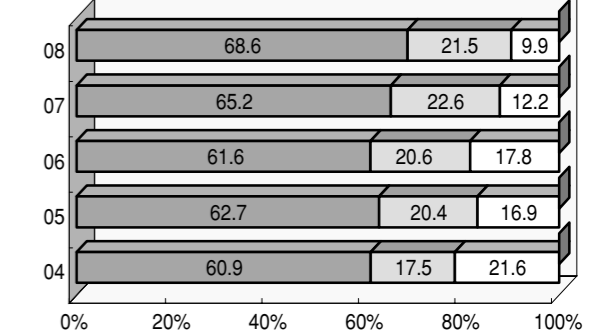


◆大学院



卒業後の状況の推移(学部)

■就職者 ■進学者 ■無業者・不詳



(注)
1. 各年度の5月1日現在のデータである。
2. 2006年度より臨床研修医の数は含まず。
3. 法務研究科は含まず(卒業者が少ないため)。

公開講座・公開授業

公開講座 (2007年度)

講座名	時間数	募集人員	受講者数	開設場所	実施部局
古典の世界をたずねる	7.5	30	25	松江キャンパス	法文学部
江戸時代の「重宝記(調法記)」を読んでみましょう	4.5	10	16	松江キャンパス	教育学部
泳げない子の水泳教室	15	20	28	学内プール	教育学部
少しだけ泳げる子の水泳教室	15	20	33	学内プール	教育学部
エクセル入門	4.5	20	11	教育学部	教育学部
エクセル中級	6	20	10	教育学部	教育学部
松江地域文化を語る	8	30	15	生物資源科学部	生物資源科学部
目を閉じて見えてくる世界	3	40	34	本庄総合農場	生物資源科学部
松江の名産西条柿に親しもう	4	30組	36組109名	本庄総合農場	生物資源科学部
農作業で旬を感じよう!	12	30	21	本庄総合農場・神西砂丘農場	生物資源科学部
理科実験講座1 自然の中の放射線	3.5	12	11	医学部	総合科学研究支援センター
理科実験講座2 遺伝子実験への扉	3.5	12	14	総合科学研究支援センター(出雲)	総合科学研究支援センター
理科実験講座3 顕微鏡の世界	3	15	18	総合科学研究支援センター(出雲)	総合科学研究支援センター
安道湖・中海の生態系モニタリング	8	40	29	法文学部	汽水域研究センター
こども硬式テニスIA	12	30	18	学内テニスコート	教育学部
こども硬式テニスIB	12	30	16	学内テニスコート	教育学部
硬式テニス教室	20	30	24	学内テニスコート	教育学部
夏休み子供科学教室「体の仕組みを勉強しよう」	2	15	17	医学部	医学部
まほろしの西夏王国とシルクロード・河西回廊を訪ねて	3	33	14	島根大学・寧夏大学	生涯学習教育研究センター
上級者へステップアップ!ワープロソフトワード	8	20	3	生物資源科学部	生物資源科学部
使ってみよう!ワープロソフト・ワード	8	20	2	生物資源科学部	生物資源科学部
こども硬式テニス教室2A	12	30	16	学内テニスコート	教育学部
こども硬式テニス教室2B	12	30	19	学内テニスコート	教育学部
硬式テニス教室Ⅱ 上級	20	30	19	学内テニスコート	教育学部
島根まるごとミュージアム体験ツアー	6.5	50	24	ミュージアム・県立古代出雲歴史博物館他	ミュージアム
サツマイモを味わってみよう!	4	30	25	本庄総合農場	生物資源科学部
総合科学研究支援センター公開講演会	3	100	30	医学部	総合科学研究支援センター
「国語」の世界を広げよう	7.5	30	25	松江キャンパス	教育学部
地域再生システム特論	24	50	16	生物資源科学部	生物資源科学部

公開授業 (2007年度)

講座名	募集人員	受講者数	実施部局
東アジアのこぼれと文学	10	3	法文学部
歴史学概論	10	4	法文学部
情報化社会と経済	5	0	法文学部
平和	15	4	法文学部
フランス文化入門	10	5	法文学部
古代中世の山陰	無制限	5	法文学部
心の世界	無制限	9	法文学部
日本国憲法	5	3	法文学部
人類史と考古学	10	5	法文学部
日本国憲法	無制限	0	法文学部
心の形成	10	10	法文学部
異文化との出会い	10	5	法文学部
日本の自然災害	5	3	法文学部
ユーラシアの文化交流	5	2	法文学部
社会問題と現代	5	6	法文学部
近現代の山陰	5	6	法文学部
電気電子工学概論	5	0	総合理工学部
汽水域の科学	無制限	2	汽水域研究センター
細胞学	5	2	生物資源科学部
医療人類学	5	0	医学部
遺伝学	3	0	生物資源科学部
環境の化学	10	1	総合理工学部
電気と磁気の物理学	5	0	総合理工学部
環境問題通論A	10	1	生物資源科学部
国際政治I	10	1	法文学部
政治学	10	3	法文学部
地域産業特論	5	0	法文学部
東洋史概説A	3	3	法文学部
情報経済論	5	0	法文学部
地域産業論I	5	1	法文学部
日本史概説A	無制限	2	法文学部
社会保障法I	無制限	3	法文学部
財政学I	無制限	5	法文学部
西洋史概説A	10	5	法文学部
自然地理学I	5	1	法文学部
労働法I	無制限	2	法文学部
現代史概説	5	1	法文学部
歴史学史料演習G	2	0	法文学部
木材加工概論	5	0	教育学部
木によるものづくり実習Ⅲ	5	4	教育学部
地誌学概説	無制限	1	教育学部
地理学演習	無制限	0	教育学部
木によるものづくり実習I	5	1	教育学部
子どもの発達と環境	20	4	教育学部
古文書学I	5	2	教育学部
自然地理学概説I	10	4	教育学部
人文地理学概説I	無制限	3	教育学部
日本古典文学特殊講義/国文学特殊講義I	無制限	5	教育学部
無機化学I	5	0	総合理工学部
高分子科学	5	0	総合理工学部

講座名	募集人員	受講者数	実施部局
生産技術基礎実習Ⅰ	5	0	生物資源科学部
生産技術基礎実習Ⅲ	5	0	生物資源科学部
耕地生産技術管理論	5	0	生物資源科学部
果実発育生理学	3	0	生物資源科学部
生産技術基礎実習Ⅲ	5	0	生物資源科学部
農作業管理論	5	0	生物資源科学部
植物細胞工学	5	1	総合科学研究支援センター
歴史のなかの民族Ⅱ	5	2	法文学部
中国文学における風土と人間	10	2	法文学部
政治・行政学入門	10	2	法文学部
現代経済へのアプローチ	5	3	法文学部
子どもと人権	無制限	0	法文学部
江戸の芸能と文化	5	5	法文学部
歴史の中の宗教Ⅱ	20	5	法文学部
王朝の物語	10	9	法文学部
自由の探究	10	3	法文学部
歴史のなかの民族Ⅰ	3	2	法文学部
酒	5	7	法文学部
近現代の日本とアジア	5	1	法文学部
地球:現在・過去・未来	10	5	総合理工学部
基礎無機化学	5	1	総合理工学部
プレートテクトニクス	10	2	総合理工学部
環境問題通論B	10	1	生物資源科学部
動物の世界	若干名	3	生物資源科学部
古文書学Ⅱ	5	1	教育学部
女性と現代	5	1	教育学部
家族関係	5	1	教育学部
情報科学演習B6	5	2	教育学部
汽水域の科学(応用編)	無制限	2	汽水域研究センター
生命科学の歴史と倫理	10	1	医学部
島大ミュージアム学	無制限	2	ミュージアム
特別講義(Rubyプログラミング)	5	0	総合情報処理センター
国際政治Ⅱ	10	5	法文学部
情報産業論	5	0	法文学部
地域産業論Ⅱ	5	0	法文学部
地方財政論	無制限	3	法文学部
社会保障法Ⅱ	無制限	0	法文学部
財政学Ⅱ	無制限	2	法文学部
現代史特論A	3	0	法文学部
自然地理学Ⅱ	5	0	法文学部
経済学概論	5	4	法文学部
歴史学史料演習G	2	1	法文学部
生産技術基礎実習Ⅱ	5	0	生物資源科学部
生産技術基礎実習Ⅳ	5	1	生物資源科学部
生産技術基礎実習Ⅳ	5	0	生物資源科学部
無機合成化学	5	0	総合理工学部
木によるものづくり実習Ⅱ	5	3	教育学部
木と木工の知識	5	0	教育学部
日本文学史Ⅰ	無制限	3	教育学部

科学研究費補助金等の受入れ状況(2007年度)

科学研究費補助金

研究種目	件数	金額(千円)
特定領域研究	5	24,900
基盤研究(A)	3	35,040
基盤研究(B)	20	70,329
基盤研究(C)	80	91,853
萌芽研究	12	11,400
若手研究(A)	1	6,300
若手研究(B)	40	39,510
特別研究員奨励費	4	5,957
特別研究促進費	0	0
若手研究(スタートアップ)	4	4,206
奨励研究	2	1,410
計	171	290,905

民間等との共同研究

件数	金額(千円)
85	83,474

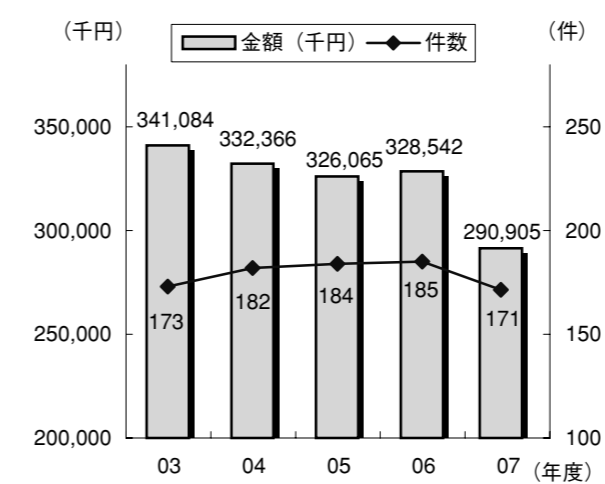
受託研究

件数	金額(千円)
57	153,589

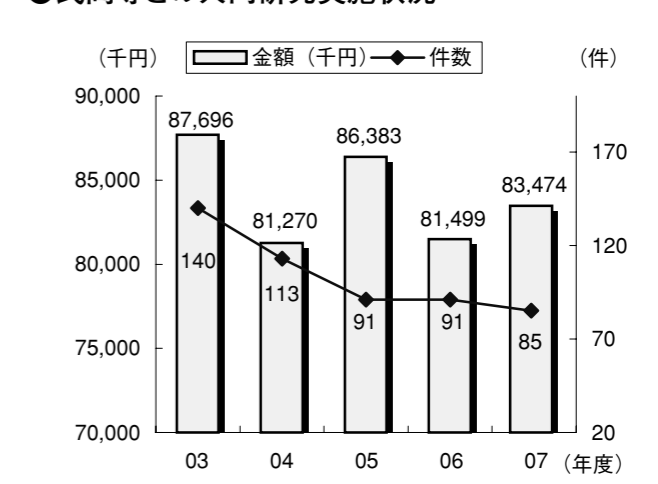
奨学寄附金

件数	金額(千円)
562	413,236

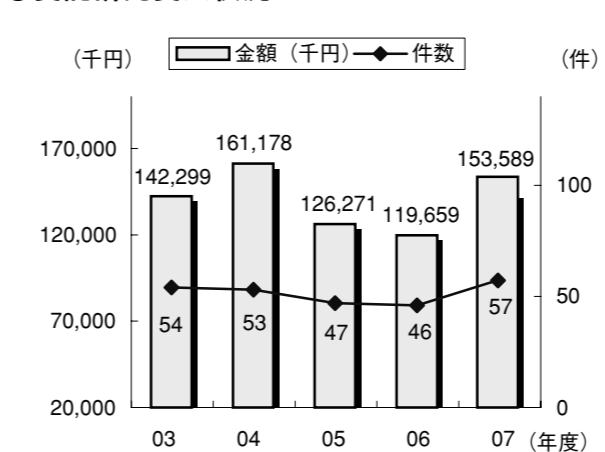
科学研究費補助金受入状況



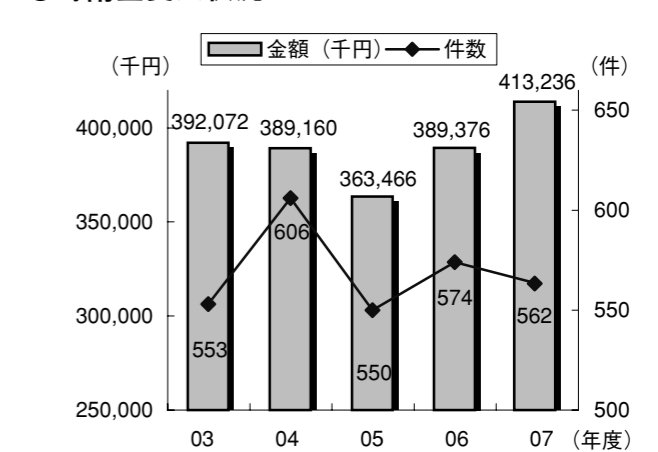
民間等との共同研究実施状況



受託研究受入状況



寄附金受入状況



注) 2003年度以前については、旧島根大学と旧島根医科大学のものを合計したデータである。

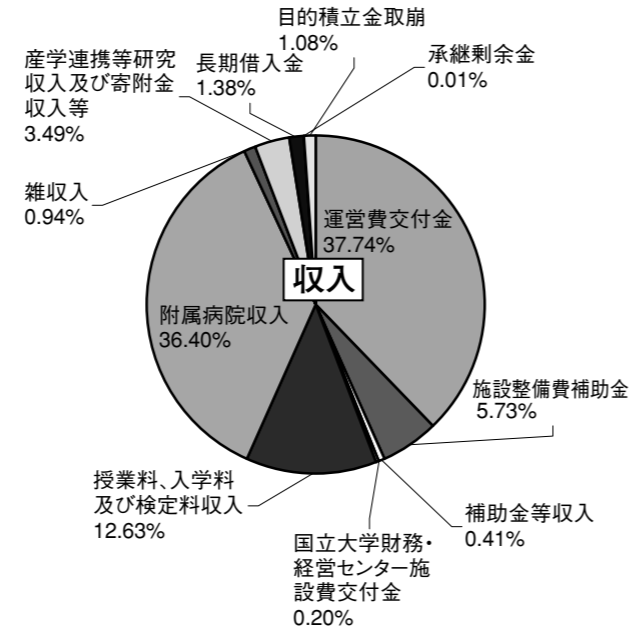
発明届出等状況(2007年度)

発明届出件数	出願件数
26件	24件

収入・支出決算額(2007年度)

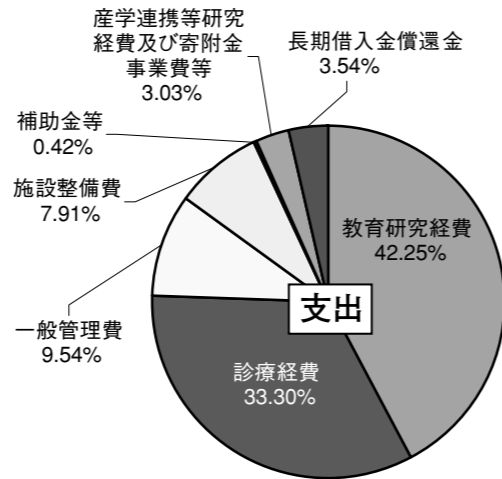
収入

区分	金額(百万円)
運営費交付金	10,831
施設整備費補助金	1,644
補助金等収入	117
国立大学財務・経営センター施設費交付	56
授業料、入学金及び検定料収入	3,624
附属病院収入	10,447
雑収入	270
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,002
長期借入金	397
承継剰余金	3
目的積立金取崩	311
合計	28,702

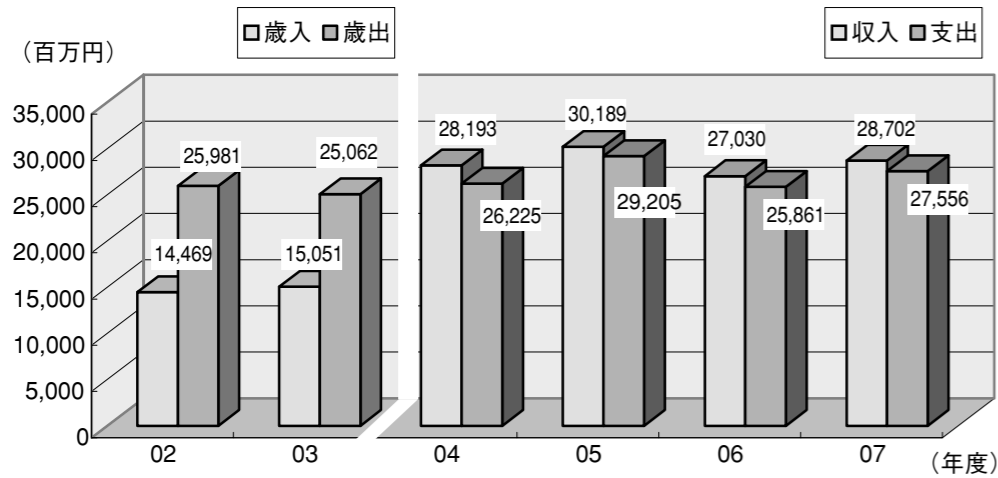


支出

区分	金額(百万円)
教育研究経費	11,642
診療経費	9,177
一般管理費	2,628
施設整備費	2,181
補助金等	117
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	835
長期借入金償還金	976
合計	27,556



収入・支出(歳入・歳出)の推移



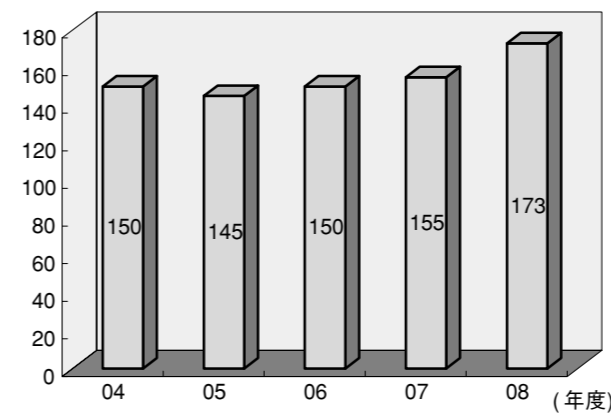
(注) 2003年度以前については、旧島根大学と旧島根医科大学のものを合計したものである。

外国人留学生の受入状況

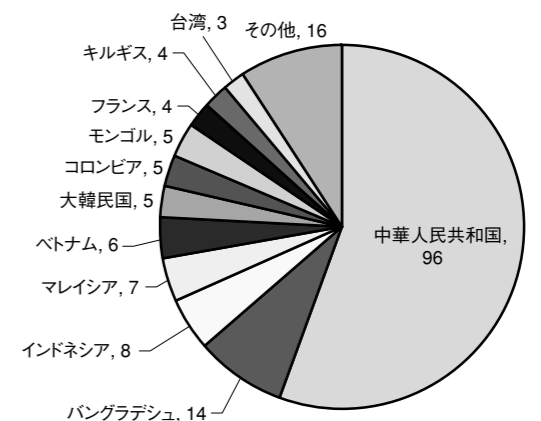
2008.5.1現在

国籍	法学部・人文社会科学部			教育学部・教育学研究科			医学部・医学系研究科			総合理工学部・総合理工学研究科			生物資源科学部・生物資源科学研究科			法務研究科	鳥取大学大学院	計			
	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等			学部学生	大学院学生	研究生等	
中華人民共和国	6	7	15		3	4		13		5	7	2	10	13	2		9	21	52	23	
バングラデシュ								6			3			2			3	0	14	0	
大韓民国	1		3		1													1	1	3	
コロンビア											4			1				0	5	0	
インドネシア								1			4			1			2	0	8	0	
ネパール														1			1	0	2	0	
モンゴル								4			1							0	5	0	
フランス			4															0	0	4	
タイ						1											1	0	1	1	
キルギス											4							0	4	0	
マレーシア	1										5	1						6	1	0	
ベトナム											1		3	1			1	4	2	0	
スリランカ												1						0	1	0	
メキシコ											1							0	1	0	
コンゴ民主共和国								1										0	1	0	
ケニア						1											1	0	1	1	
エチオピア											1							0	1	0	
コスタリカ								1										0	1	0	
ロシア											1							0	1	0	
ニュージーランド																		0	0	0	
マラウイ																	1	0	1	0	
インド											1							0	1	0	
台湾	2							1										2	1	0	
ドイツ												1						0	0	1	
カザフスタン	1																	1	0	0	
小計	11	7	22		0	4	6	0	27	0	11	29	3	13	19	2	0	19	35	105	33
総計	40				10			27			43			34			0	19			173

留学生数の推移



留学生の国籍内訳

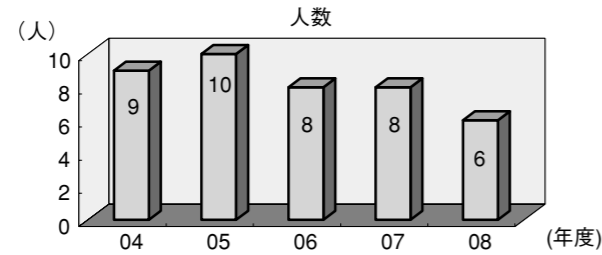


外国への留学状況

2008.3.1現在

学部等	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	計
国名						
中華人民共和国	1	0	0	0	0	1
大韓民国	0	0	0	1	0	1
フランス	1	0	0	0	0	1
アメリカ合衆国	3	0	0	0	0	3
ドイツ	0	0	0	0	0	0
計	5	0	0	1	0	6

●留学状況



外国人研究者の受入状況

2007年度

受入部局	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	合計
国籍						
アメリカ合衆国				1		1
インドネシア			1			1
バングラデシュ			3		1	4
中華人民共和国		2	2		1	5
イタリア					1	1
スウェーデン	1					1
ドイツ				1		1
合計	1	2	6	2	3	14

奨学生数

2007年度

区分	学生数	日本学生支援機構			比率	
		一種	二種	計		
法文学部	1,023	200	276	476	46.5	
教育学部	733	146	197	343	46.8	
医学部	831	122	234	356	42.8	
総合理工学部	1,781	314	486	800	44.9	
生物資源科学部	914	162	264	426	46.6	
計	5,282	944	1,457	2,401	45.5	
人文社会科学部	23	6	4	10	43.5	
教育学部	69	14	8	22	31.9	
医学系研究科	博士課程	94	0	0	0.0	
	修士課程	48	3	1	8.3	
総合理工学研究科	博士前期課程	246	88	25	113	45.9
	博士後期課程	25	6	0	6	24.0
生物資源科学研究科	110	50	14	64	58.2	
法務研究科	80	29	26	55	68.8	
計	695	196	78	274	39.4	
合計	5,977	1,140	1,535	2,675	44.8	

定期刊行文献

●学術雑誌

発行部局等名	文献誌名	編集	発行回数(年)
法文学部	島根大学法文学部紀要法経学科・法務研究科篇〔島大法学〕	法文学部法経学科・法務研究科	4
	島根大学法文学部紀要法経学科篇〔経済科学論集〕	法文学部法経学科	1
	島根大学法文学部紀要社会文化学科篇〔社会文化論集〕	法文学部社会文化学科	1
	島根大学法文学部紀要言語文化学科編〔島大言語文化〕	法文学部言語文化学科	2
教育学部	島根大学教育学部紀要(教育科学、人文・社会科学、自然科学)	教育学部	1
	英語教育と英語研究	教育学部英語教育研究室	1
	社会科研究	教育学部社会科教育研究室	1
	島根大学教育臨床総合研究	教育学部附属教育支援センター	1
	島根大学教育学部心理臨床・教育相談室紀要	教育学部心理臨床・教育相談室	1
	附属小学校研究紀要	附属小学校	1
	附属中学校研究紀要	附属中学校	1
医学部	島根大学医学部紀要, Shimane Journal of Medical Science	医学部	1
	島根大学医学部教育研究業績報告集	医学部	2年に1回
総合理工学部	島根大学総合理工学部紀要	総合理工学部	1
	島根大学地球資源環境学研究報告	総合理工学部地球資源環境学科	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部研究報告	生物資源科学部	1
生涯学習研究センター	島根大学生涯学習研究センター研究紀要	生涯学習研究センター	1
総合科学研究支援センター	島根大学総合科学研究支援センター教育研究活動報告	総合科学研究支援センター	1
汽水域研究センター	LAGUNA(汽水域研究)	汽水域研究センター	1
外国語教育センター	島根大学外国語教育センタージャーナル	外国語教育センター	1

●広報紙等

発行部局等名	広報紙名	編集	発行回数(年)
総務課	島根大学概要	広報・広聴委員会	1
	島根大学案内	広報・広聴委員会	1
	島根大学案内パンフレット	広報・広聴委員会	不定期
	広報しまだい	広報・広聴委員会	2
	be	広報・広聴委員会	2
社会・国際連携課	PROSPECTUS	社会・国際連携課	隔月
法文学部	島根大学法文学部(学部案内)	法文学部	1
人文社会科学部	島根大学大学院人文社会科学部研究科(研究科案内)	人文社会科学部研究科	不定期
教育学部	島根大学教育学部(学部案内)	教育学部	1
	1000時間体験学修	教育学部附属教育支援センター	1
	こころとそだちの相談室	教育学部心理・発達臨床相談室	1
	園要覧(附属幼稚園)	附属幼稚園	1
	おりづる	附属幼稚園	6
	学校要覧(附属小学校)	附属小学校	1
	附小だより	附属小学校	6
	ちどり	附属小学校	3
	学校要覧(附属中学校)	附属中学校	1
	若樹	附属中学校	3
医学部	島根大学医学部(学部案内)	医学部	1
医学部附属病院	病院ニュース しろうさぎ	附属病院	4
総合理工学部	島根大学総合理工学部(学部案内)	総合理工学部	1
総合理工学研究科	島根大学大学院総合理工学研究科(博士前期課程)(研究科案内)	総合理工学研究科	1
	島根大学大学院総合理工学研究科(博士後期課程)(研究科案内)	総合理工学研究科	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部(学部案内)	生物資源科学部	1
	生物資源科学部だより	生物資源科学部	2
法務研究科	島根大学法科大学院(山陰法科大学院)パンフレット	法務研究科	不定期
	島根大学大学院法務研究科(山陰法科大学院)地域法律相談センター案内	法務研究科	不定期
	島根大学法文学部紀要法経学科・法務研究科篇〔島大法学〕	法文学部法経学科・法務研究科	4
附属図書館	島根大学附属図書館概要	図書館課	隔年
保健管理センター	保健管理センターのしおり	保健管理センター	1
生涯学習教育研究センター	島根大学・生涯学習支援活動ガイドブック	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センター年報	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センターパンフレット	生涯学習教育研究センター	1
総合情報処理センター	島根大学総合情報処理センター(概要)	総合情報処理センター	不定期
	島根大学総合情報処理センター・ニュースレター	総合情報処理センター	1
産学連携センター	島根大学研究シーズ集	産学連携センター	不定期
	島根大学産学連携センター年報	産学連携センター	1
	島根大学産学連携センター・ニュースレター	産学連携センター	1
ミュージアム	島根大学ミュージアム・ニュースレター	ミュージアム	不定期
	島根大学ミュージアム年報	ミュージアム	1
教育開発センター	島根大学教育開発センター年報	教育開発センター	1

区分	土地	建物		備考
		延面積	延面積	
松江キャンパス	m ²	m ²	m ²	
西川津地区	176,931	33,228	113,747	
本部管理棟		642	2,789	
法文学部		1,899	7,629	
教育学部		4,069	16,605	
総合理工学部		6,692	34,538	1,2,3号館
生物資源科学部		4,926	22,337	1,2,3号館
生物資源科学部附属施設		1,257	1,365	水利実験室, 農業機械実験室, 林産加工場, 製材室
教養講義室		1,684	4,708	1,2号館
附属図書館		2,020	6,826	
遺伝子実験施設		515	1,513	
保健管理センター		256	474	
総合情報処理センター		356	682	
ミュージアム		153	153	
汽水域研究センター		249	760	
古代出雲研究施設		64	129	
光物性実験室		52	52	
動物飼育室		50	50	
体育施設		4,462	5,122	第一, 第二体育館, トレーニングセンター, プール棟, 武道場
学生センター		768	1,393	
学生会館松江		876	2,165	
学生食堂		1,202	1,635	学生食堂, 第二学生食堂
課外活動共用施設		488	1,957	
環境安全施設		180	180	
有機廃液焼却処理棟		92	92	
中央監視室		69	69	
特高受変電棟		168	336	
その他		3,580	3,897	倉庫建及び雑屋建
深町地区(学寮)	23,711	2,128	4,481	
大輪地区	54,654	8,734	15,549	
教育学部附属幼稚園		764	928	園舎, 物置, 器具置場, 渡廊下
教育学部附属小学校		3,917	7,399	
教育学部附属中学校		4,053	7,222	
その他の地区				
汽水域研究センター中海分室	3,123	383	778	
国際交流会館松江	3,182	433	829	
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター				
森林科学部門	5,708,567	503	725	三瓶演習林, 匹見演習林, 松江試験地
農業生産科学部門	272,500	6,048	6,877	本庄総合農場, 神西砂丘農場, 三瓶山麓農場
海洋生物科学部門	4,318	836	1,419	隠岐臨海実験所
第二運動場	4,864	75	75	
朝酌艇庫	1,315	302	369	
研究者交流会館	1,119	339	503	
産学連携センター(松江)	0	589	1,141	地域産業共同研究部門, 知的財産創活部門, 連携企画推進部門
その他	1,825			京田, 曲り田
出雲キャンパス	220,198	30,583	98,456	
本部棟		696	3,206	
講義棟		648	1,930	
実習棟		1,179	4,524	
基礎研究棟		693	5,094	
臨床研究棟		916	4,647	
共同研究棟		598	2,398	
第二研究棟		560	3,714	
第二共同研究棟		290	1,149	
RI・動物実験施設		1,082	3,886	
附属図書館(医学分館)		927	2,182	
附属病院棟		10,617	40,514	
RI・高エネルギー棟		1,043	1,158	
臨床講義棟		704	1,507	
学生会館出雲		665	1,946	
体育館		1,175	1,175	
武道館		432	432	武道場, 弓道場
中央機械室		1,779	2,567	
医学部会館		373	586	
MRI-CT装置棟		468	531	
病歴室		150	466	
第三研究棟		395	1,346	
RI研究棟		192	428	
塵芥焼却炉室・発電機室		323	323	
国際交流会館出雲		435	906	
看護学科棟		1,345	6,823	
中水処理機械室		336	336	
RI処理施設		216	259	
特高受変電棟		195	390	
産学連携センター(出雲)		767	2,268	地域医学共同研究部門
その他		1,599	2,175	

◆学部等	
	電話/E-mail
法文学部	0852-32-6113 hor-soumu1@jn.shimane-u.ac.jp
教育学部	0852-32-6253 kyo-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
附属教育支援センター	0852-32-9836 aces@edu.shimane-u.ac.jp
附属教師教育研究センター	0852-32-6495
附属FD戦略センター	0852-32-9850
附属幼稚園	0852-29-1120 sora@edu.shimane-u.ac.jp
附属小学校	0852-29-1200 yaegumo@edu.shimane-u.ac.jp
附属中学校	0852-29-1300 shimafu@edu.shimane-u.ac.jp
医学部	0853-20-2015 igak-sokac@jn.shimane-u.ac.jp
医学部附属病院	0853-20-2061 renkei@med.shimane-u.ac.jp
総合理工学部	0852-32-6095 hri-somu2@jn.shimane-u.ac.jp
生物資源科学部	0852-32-6492 kouhou@life.shimane-u.ac.jp
附属生物資源教育研究センター	0852-34-0311 ercbr@life.shimane-u.ac.jp
法務研究科	0852-32-9835 houka-in@jn.shimane-u.ac.jp
◆学内共同教育研究施設等	
	電話/E-mail
産学連携センター	
地域産業共同研究部門	0852-60-2290
知的財産創活部門	0852-60-2290
連携企画推進部門	0852-60-2290 (松江キャンパス) crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp
地域医学共同研究部門	0853-20-2912 (出雲キャンパス) cmrc@med.shimane-u.ac.jp
総合科学研究支援センター	
・松江キャンパス	
遺伝子機能解析分野	0852-32-6109 idenshi@life.shimane-u.ac.jp
R1実験施設	0852-32-6109
物質機能分析分野	0852-32-6122 katsube@jn.shimane-u.ac.jp
・出雲キャンパス	
実験動物分野	exanimal@med.shimane-u.ac.jp
生体情報・R1実験分野	crshp@med.shimane-u.ac.jp
保健管理センター	
・松江キャンパス	0852-32-6568
・出雲キャンパス	0853-20-2098 nohara@med.shimane-u.ac.jp
生涯学習教育研究センター	0852-32-6408 ercll@edu.shimane-u.ac.jp
国際交流センター	0852-32-9756 international@jn.shimane-u.ac.jp

総合情報処理センター	0852-32-6091 center@ipc.shimane-u.ac.jp
汽水域研究センター	0852-32-6099 kisui@soc.shimane-u.ac.jp
外国語教育センター	0852-32-9837 ozono@soc.shimane-u.ac.jp
ミュージアム	0852-32-6496 museum@riko.shimane-u.ac.jp
評価室	0852-32-6605
総合企画室	0852-32-6605
教育開発センター	0852-32-6052
入試センター	0852-32-6073 nyu-nyushi@jn.shimane-u.ac.jp
プロジェクト研究推進機構	0852-32-6056 kenkyh04@jn.shimane-u.ac.jp
島根大学・早夏大学国際共同研究所	0852-32-6056 neikakenkyuusyoo@yahoo.co.jp
◆事務組織	
	電話/E-mail
総務部	
総務課	0852-32-6014 jsy-bunsho@jn.shimane-u.ac.jp
人事労務課	0852-32-6018 sji-syokuin@jn.shimane-u.ac.jp
財務部	
財務課	0852-32-6023 zkz-kikaku@jn.shimane-u.ac.jp
経理・調達課	0852-32-6028 zke-keiyaku1@jn.shimane-u.ac.jp
施設企画課	0852-32-6044
施設整備課	zki-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
監査室	0852-32-6026 zza-kansa@jn.shimane-u.ac.jp
学術国際部	
研究協力課	0852-32-6056
社会・国際連携課	0852-32-9757 sya-shogai@jn.shimane-u.ac.jp
情報企画課	0852-32-6248 jka-iyohou@jn.shimane-u.ac.jp
図書情報課	0852-32-6083 library@lib.shimane-u.ac.jp
教育・学生支援部	
教育・入試企画課	0852-32-6052 gak-kyoumu@jn.shimane-u.ac.jp
学務課	0852-32-7029
学生支援課	0852-32-6063 gga-shien@jn.shimane-u.ac.jp
附属図書館	
本館(松江キャンパス)	0852-32-6083 library@lib.shimane-u.ac.jp
医学分館(出雲キャンパス)	0853-20-2092 m-kanri@lib.shimane-u.ac.jp

アクセス

(2008.5.20現在)

松江キャンパス

空路

東京(羽田) 出雲……………1時間25分
 福岡 出雲……………1時間10分
 大阪(伊丹) 出雲……………1時間
 札幌 出雲……………2時間
 出雲空港から空港連絡バス松江行(約30分)JR松江駅下車
 東京(羽田) 米子……………1時間15分
 名古屋 米子……………1時間05分
 米子空港から空港連絡バス松江行(約45分)JR松江駅下車

J R

東京 岡山 松江……………5時間40分
 福岡 岡山 松江……………4時間30分
 大阪 岡山 松江……………3時間10分

高速バス

東京(渋谷) 松江……………10時間35分
 大阪(梅田) 松江……………4時間40分
 岡山 松江……………3時間
 広島 松江……………3時間15分
 福岡 松江……………9時間

出雲キャンパス

空路

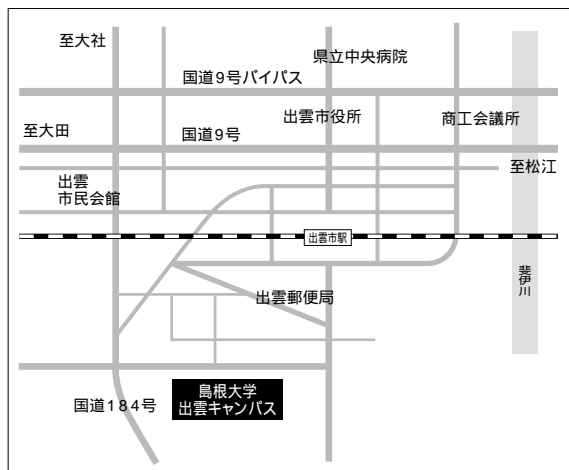
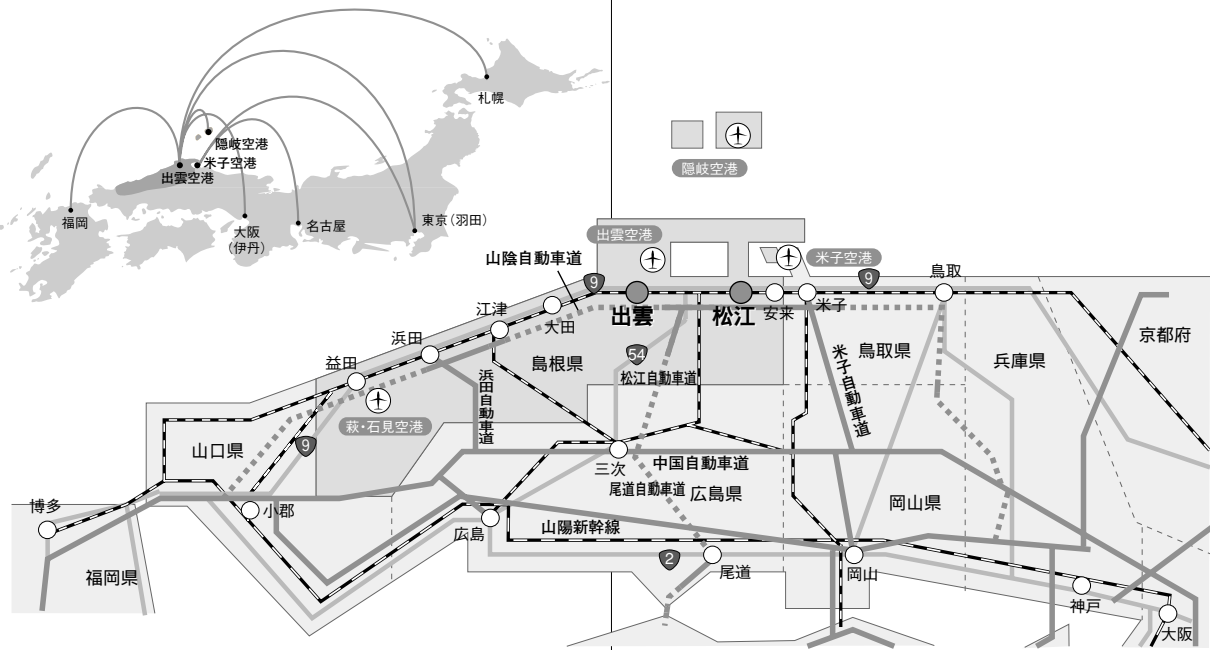
東京(羽田) 出雲……………1時間25分
 福岡 出雲……………1時間10分
 大阪(伊丹) 出雲……………1時間
 札幌 出雲……………2時間
 出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行(約25分)JR出雲市駅下車

J R

東京 岡山 出雲市……………6時間05分
 福岡 岡山 出雲市……………4時間55分
 大阪 岡山 出雲市……………3時間35分

高速バス

東京(渋谷) 出雲……………11時間25分
 大阪(梅田) 出雲……………5時間30分
 岡山 出雲……………3時間50分
 広島 出雲……………3時間10分
 福岡 出雲……………8時間10分



島根大学周辺案内



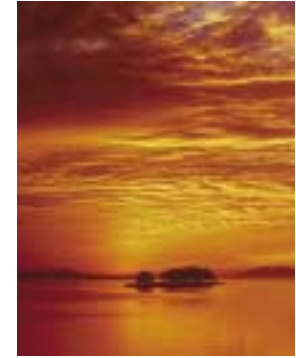
松江城
山陰地方で唯一の現存する天守閣。天守からは松江市内を一望することができます。



堀川遊覧船
小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がこよなく愛した水の都松江のまちを水際からめぐります。



島根県立古代出雲歴史博物館
荒神谷や加茂岩倉から出土した大量の青銅器、古代の出雲大社復元模型など古代出雲の謎に迫る展示が一堂に。



穴道湖
松江市の西にひろがる湖で、夕景の美しさが有名です。海水の少しまじった汽水湖で、ヤマトシジミの全国的な主産地でもあります。



出雲大社
伊勢神宮に並ぶ大社。大国主命を祀り縁結びの神としても有名です。本殿は国宝に指定されています。



日御碕
明治36年に建築された石積みの灯台で、地上38.8m東洋一の高さを誇り、世界の灯台百選に選ばれています。



出雲ゆうプラザ
中四国で最大級の温泉・温水を活用した施設で、ウォータースライダー、渚プール、サウナなどが楽しめます。



県内その他のエリア



石見銀山
徳川幕府の財政を支えてきた銀山。横穴式坑道の「間歩」が一般公開されています。2007年、世界遺産に登録。



しまね海洋館アークス
中四国地方最大規模を誇る水族館。シロイルカが人気で、約500種1万点もの海の生物が展示されています。



津和野
城下町として700年の歴史を持つ山陰の小京都。白壁を映す堀割に遊ぶ鯉、赤い鳥居の続く大鼓谷稲荷神社などが有名。



国賀海岸
本土から高速船で約1時間の隠岐の島。国賀海岸は隠岐を代表するダイナミックな景勝地です。